

『三譯総解(第六)』ハンゲル表記満洲語文語索引*

王 海波
(嶺南師範学院)

キーワード: 『三譯総解』、ハンゲル表記、満洲語文語

1. はじめに

朝鮮時代の司譯院は、外交通訳を担うと同時に、外国語教育機関としても機能していた。ここには漢学・倭学・蒙学・女真学の四学が置かれ、満洲人の入関後には女真学が清学へと改められた。現存する清学書としては、読本類の『八歳兒』・『小兒論』・『三譯総解』・『清語老乞大』と、辞書類の『同文類解』・『漢清文鑑』が挙げられる(小倉 1914a: 44-45; 1914b: 257-262; Lie 1972: 19-21; 邵磊 2011: 290)。

清学書におけるハンゲル表記の満洲語文語は、必ずしも満洲文字で書かれた満洲語文語を一对一で転写したものではない。例えば、満洲語文語の CVwV (C=子音、V=単母音または二重母音) に相当する語形が、ハンゲル表記では1音節で書かれる場合もあれば、2音節で書かれる場合もある。また、満洲語文語の e に対応するハンゲル表記や io に対応するハンゲル表記などにも、それぞれ複数の対応形式が見られる。ハンゲル表記の満洲語文語は、満洲文字では表しきれない発音上の細部を、ある程度反映している可能性がある。清学書における満洲語文語の満洲文字表記とハンゲル表記の対応関係に関する研究としては、池上(1951; 1954; 1963)、今西(1958)、성백인(1984)、岸田(1989)、Ikegami(1990)、崔宰宇(1997)、菅野(2005)、邵磊(2011; 2016)、和田(2013)、王敵非(2013)、邵磊・多麗梅(2022; 2023)、邵磊・金龍軍(2022)、邵磊・林茶英(2022)、邵磊・王敵非(2022)、邵磊・任國俊(2023)などが挙げられる。

満洲文字とハンゲルの表記対応の問題を検討するには、ハンゲルで記された満洲語文語の語を、対応するメレンドルフ式転写にもとづいて配列し、整理する作業が有効であると考えられる。そこで本稿では、清学書『三譯総解』(全十巻)の第六巻(『三譯総解(第六): 闕澤密獻詐降書』)にあるハンゲル表記の満洲語文語の語について、メレンドルフ式転写にもとづき索引を作成する。

2. ハンゲル表記満洲語文語の索引

次表は、清学書『三譯総解(第六)』におけるハンゲル表記の満洲語文語の語形を、メレンドルフ式転写のアルファベット順に配列したものである。

[1] 第1列には、満洲文字で書かれた語のローマ字転写(メレンドルフ式転写)と、その語の和訳を示している。和訳については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、福田(2008)等を参考にした。なお、和訳は原則として『三譯総解』中の文脈に限定した意味ではなく、一般的な語義に基づくものとする。

[2] 第1列の動詞については、原則として未完了形とその和訳を記載している。ただし、『三譯総解』における記録が未完了形以外の形式である場合には、第1列に未完了形と和訳を示すとともに、その下の行には、対応する語形を併記している。

* 本稿は、中国社会科学基金後期資助項目「満語支語言音系学研究」(課題番号 22FMZB009)の助成を受けた研究成果の一部である。

[3] 第2列には、『三譯総解』に見られるハングル表記の満洲語文語の語形を示している。
 [4] 第3列は、当該語形が『三譯総解』原書のどこに出現しているかを示したものである。たとえば「(6-1a-2-3)」は「第6巻-第1葉a面-第2行-第3語」を表す。「第X語」とは、ハングル表記の満洲語文語のみを対象に順に計数した場合のX番目に現れる語を指す(ハングル表記の満洲語文語以外の語は計数から除外する)。

表1：『三譯総解（第六）』ハングル表記満洲語文語索引

メンドルフ式転写と和訳	ハングル表記	出現箇所
abka 「空」	압카	(6-3b-5-3) (6-5a-1-1) (6-8b-1-4) (6-9b-4-3) (6-17a-5-2) (6-24a-1-5)
abkai 「空(そらの)」	압개	(6-11b-6-2)
acabumbi 「合わせる；合わせる」	---	---
acabume	아차부머	(6-9b-4-5) (6-17a-5-4)
acabure	아차부리	(6-23b-6-2)
acambi 「会う；合う」	아참비	(6-3a-4-1) (6-19b-1-4) (6-24b-4-5)
acafi	아차피	(6-19b-6-1)
acaha	아차하	(6-5a-4-1)
acara	아차라	(6-21b-3-6)
acanjimbi 「会いに来る」	---	---
acanjime	아찬지머	(6-4a-5-4)
adali 「同様」	아다리	(6-1b-4-2) (6-2b-2-4) (6-5b-4-2) (6-16b-4-2)
adaram 「如何に」	아다라머	(6-12b-2-1) (6-13a-1-7) (6-14a-6-1) (6-15b-1-4)
afambi 「攻める、戦う」	---	---
afaha	아파하	(6-14a-2-4)
afara	아파라	(6-6a-3-8) (6-10a-1-2)
aga 「雨」	아가	(6-5b-3-4)
agūra 「豹尾槍(槍の一種)；兵器；機械」	아구라	(6-7a-2-8) (6-10a-3-4)
ai 「何；何の」	애	(6-5a-6-3) (6-11b-1-1) (6-12a-3-2) (6-13b-3-5) (6-14b-5-4) (6-20b-3-6) (6-22b-1-1)
aibide 「どこに」	애비더	(6-7b-1-1)
aifini 「とっくに」	애피니	(6-24a-4-7)
aikabade 「もし」	애카바더	(6-15b-2-2) ¹ (6-16b-6-1)
ainambahambi	---	---
ainambahafi 「どうして～できるのか」	애남바하피	(6-22b-3-6)
ainambi 「何をする、どうする」	애남비	(6-12b-3-4)
ainara	애나라	(6-10a-6-1)
ainci 「思うに」	앤치	(6-18a-2-3)

¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「애카바더」のうち、「더」の印刷が不鮮明である。

ainu 「なぜ」	애누	(6-2b-5-3) (6-6a-5-1) (6-13b-2-6) (6-14b-1-4) (6-22b-2-2)
aisembi 「何と言う、どう言う」	---	---
aiseme	애스머	(6-15a-3-3)
aisilabumbi 「助けさせる」	---	---
aisilaburengge	애시라부렁거	(6-24a-1-7)
aisilambi 「助ける」	---	---
aisilaci	애시라치	(6-2b-4-6) (6-24b-4-4)
aisilara	애시라리 ²	(6-21b-2-3)
aisin 「金」	애신	(6-19b-2-1)
ajige 「小さい」	아지거	(6-3b-1-5) (6-19b-4-1)
ajigen 「小さい、幼い」	아지건	(6-1b-3-1) ³ (6-12b-4-4) (6-13b-6-1)
akambi 「心傷む；苦しむ」	---	---
akara	아카라	(6-22b-3-3)
akdambi 「信頼する」	---	---
akdafi	악다피	(6-2a-4-3)
akdun 「頑丈な；信用ある」	악둔	(6-18b-6-2)
akū 「無い」	아쿠	(6-1b-2-5) (6-4b-5-3) (6-6b-4-2) (6-6b-6-6) (6-8a-6-4) (6-9a-6-7) (6-11b-1-3) (6-13b-3-2) (6-13b-5-4) (6-14a-3-3) (6-14a-4-5) (6-15a-3-1) (6-16a-4-5) (6-20a-2-3) (6-21b-2-5)
akūngge 「無いもの」	아쿱거	(6-9b-2-2)
alambi 「告げる」	---	---
alaha	아라하	(6-6b-4-6) (6-23a-4-3) (6-24a-3-8)
alame	아라머	(6-4b-4-2)
alara	아라라	(6-19b-6-8) (6-23b-2-1)
alanabumbi 「告げに行かせる」	---	---
alanabuha	아라나부하	(6-24a-5-3)
alanambi 「告げに行く」	---	---
alana	아라나	(6-4a-3-6)
alanara	아라나라	(6-4b-1-8) ⁴
alanjimbi 「告げに来る」	---	---
alanjihabi	아란지하비	(6-18a-2-1)

² 原書の当該箇所では、「애시라리」ではなく「애시라리」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

³ 岸田（1997:207）によれば、『三譯総解』（6-1b-3-1）の ajigen に対応する『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所における語形はいずれも ajigan である。筆者の確認によれば、『滿漢合璧三国志』の当該箇所(10-24a-5-7)においては確かに ajigan と綴られているが、同書において ajigen の綴りがないわけではない。例えば、『滿漢合璧三国志』（10-29a-1-8）、(10-29b-1-3)には ajigenci の綴りがある。なお、『増訂清文鑑』の ajigen 「幼」の説明文は uthai ajigan sere gisun（「すなわち ajigan という語」の意）であり、また、ajigan 「畧小」の説明文は uthai ajigen sere gisun（「すなわち ajigen という語」の意）である。

⁴ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「아라나라」のうち、二つ目の「라」の印刷が不鮮明である。

alanju	아란쥬	(6-11b-3-4) (6-18b-1-7)
alibumbi 「受けさせる ; 手渡す、呈する ; 授ける」	---	---
alibuha	아리부하	(6-7b-2-4) (6-8a-3-5) (6-10b-5-1)
alibuki	아리부키	(6-7a-3-2) (6-10a-4-1)
alibume	아리부머	(6-13b-1-6) (6-17b-3-6)
alimbaharakū 「甚だ」	아림바하라쿠	(6-17b-5-1) (6-21a-1-1)
alimbi 「受ける ; 引き受ける」	---	---
alime	아리며	(6-2a-5-4) (6-7a-4-1) (6-8b-5-1) (6-10b-1-3) (6-16a-2-7) (6-19b-3-1)
alin 「山」	아린	(6-8b-3-6)
aljambi 「離れる ; 顔色を変える」 (angga aljambi 「約束する」)	---	---
aljahabi	알자하비	(6-22b-6-4)
aljarakū	알자라쿠	(6-11b-6-1)
ama 「父」	아마	(6-16b-3-4)
amaga 「後の、将来の」	아마가	(6-17a-1-6)
amargi 「北 ; 後ろ」	아말기	(6-3b-3-1)
amasi 「後ろに」	아마시	(6-12a-1-2)
amba 「大きい」	암바	(6-2a-6-1) (6-4a-4-8) (6-5b-3-1) (6-8a-2-3) (6-9a-2-2)
amban 「大臣 ; 大きい」	암반	(6-1b-3-4) (6-2a-3-7) (6-6b-1-4)
ambasa 「大臣たち」	암바사	(6-25b-6-1)
ambula 「多い ; 大いに」	암부라	(6-1a-4-5) (6-11b-6-5) (6-13b-4-4) (6-16b-5-3)
amuran 「好き」	아무란	(6-1a-4-6)
anatambi 「一緒に押す ; 押し付ける」	---	---
anatame	아나타머	(6-11b-4-9)
aniya 「年」	아냐	(6-10b-2-7)
antaha 「客」	안타하	(6-15a-2-5)
arambi 「作る ; 書く ; ~のふりをする」	아람비	(6-9b-2-5)
arafi	아라피	(6-9b-1-5) (6-21a-6-6) (6-25a-2-2) (6-25a-3-6)
araha	아라하	(6-1b-2-2)
arame	아라머	(6-3a-5-3)
arara	아라라	(6-21a-4-3)
arbun 「容姿 ; 様子」	알분	(6-8b-2-2) (6-20b-1-3)
arga 「方法 ; 計略」	알가	(6-11a-4-6) (6-12a-2-5) (6-14b-1-5)
argadambi 「計略を用いる」	---	---
argadara	알가다라	(6-12b-5-4)

ashan 「傍ら」	앗한	(6-11b-2-3) (6-23b-1-1)
asiha 「若い；若者」 ⁵	아시하	(6-9a-2-4)
aššambi 「動く」	---	---
aššara	아샤샤라 ⁶	(6-25b-2-4)
ba 「所；里(距離単位)」	바	(6-1a-3-5) (6-6b-4-1) (6-6b-6-5) (6-14b-5-6) (6-20a-4-8) (6-24b-2-1)
babe 「所/里を」	바며	(6-13a-5-4)
babi 「～所がある」	바비	(6-13b-4-1)
bade 「所/里に」	바더	(6-1b-5-8) (6-21b-4-5) (6-24b-5-4)
bahambi 「得る」	---	---
bahafi	바하피	(6-8a-5-3)
bahara	바하라	(6-15b-6-2) (6-17a-2-2) (6-25b-5-1)
baimbi 「探す；求める」	뱌뱌	(6-10b-1-6)
baifi	뱌피	(6-1a-6-8) (6-18b-6-5)
baire	뱌리	(6-5b-4-1) (6-16b-4-1)
bairengge	뱌렁거	(6-5b-2-6) (6-18a-5-3)
baita 「事」	뱌타	(6-5a-6-4) (6-20b-3-7)
baitalambi 「使う」	---	---
baitalafi	뱌타라피	(6-11a-5-1)
baniha 「感謝」	바니하	(6-3a-2-2)
banjimbi 「暮らす；生む；生まれる」	---	---
banjifi	반지피	(6-2a-6-5)
bardanggilambi 「威張る、大袈裟に言う」	---	---
bardanggilarengge ⁷	발당기라렁거	(6-14a-1-1)
baru 「～に向かって」	바루	(6-3b-3-4) (6-6a-3-4) (6-11b-6-3) (6-14a-2-3) (6-21a-4-1) (6-22a-1-7)
be 「私たち(除外的)」	버	(6-17a-3-6) (6-24a-4-6)
be 「を」	버	(6-1a-6-2) (6-1b-1-4) (6-2a-1-5) (6-2a-4-1) (6-2a-6-7) (6-2b-1-1) (6-2b-3-5) (6-2b-6-5) (6-3a-3-2) (6-3a-6-2) (6-3a-6-8) (6-4a-1-4) (6-5a-3-6) (6-5b-1-7) (6-5b-2-5) (6-5b-3-5)

⁵ 当該語は『増訂清文鑑』では asihan と綴られている。asihan 「少」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』では asiha と綴られている。見出し語 asiha 「幼少。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、asiha に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 210) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、いずれも asihan である。

⁶ 王海波 (2026b: 4) の脚注 3 を参照されたい。

⁷ 母音調和に従えば、bardanggilarengge ではなく、bardanggilarangge のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、bardanggilarengge に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 210) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ bardangkilarangge と bardanggilarangge である。岸田が指摘しているように、bardangkilarangge は bardanggilarangge の誤記であり、g の付点が欠漏しているために、k となっている。

bardanggilarangge の清代文献における出現例は他にもあり、例えば、『一百條』には bi bardanggilarangge waka 「不是我誇口」がある (竹越 2016: 33)。

		(6-5b-5-2) (6-6b-3-4) (6-7a-4-4) (6-7a-6-3) (6-7b-2-2) (6-7b-3-2) (6-7b-5-7) (6-8a-5-2) (6-8b-2-3) (6-8b-4-9) (6-8b-6-3) (6-9a-2-8) (6-9b-1-3) (6-9b-2-3) (6-9b-4-7) (6-9b-5-2) (6-10a-3-5) (6-10b-1-5) (6-11a-2-3) (6-11a-4-4) (6-11a-4-7) (6-11b-2-6) (6-11b-4-7) (6-12a-2-3) (6-12a-2-6) (6-12a-6-1) (6-12a-6-3) (6-12b-1-4) (6-12b-5-1) (6-12b-5-7) (6-13a-1-2) (6-13a-3-5) (6-13a-3-9) ⁸ (6-13b-2-5) (6-13b-6-5) (6-14b-1-2) (6-14b-1-7) (6-14b-2-3) (6-14b-3-5) (6-14b-4-6) (6-15a-2-6) (6-15a-5-5) (6-15a-5-7) (6-15a-6-5) (6-15b-1-6) (6-15b-6-3) (6-16a-2-6) (6-16a-4-3) (6-16a-5-4) (6-16b-2-3) (6-16b-3-6) (6-17b-3-5) (6-18a-1-6) (6-18a-1-9) (6-18b-1-2) (6-18b-6-4) (6-19a-1-6) (6-19a-3-5) (6-19b-6-4) (6-20a-3-5) (6-20a-5-8) (6-20b-1-4) (6-20b-5-5) (6-20b-6-1) (6-21a-5-4) (6-21a-6-4) (6-21b-1-2) (6-21b-3-7) (6-22a-5-4) (6-22b-3-4) (6-22b-4-5) (6-23a-3-1) (6-23b-1-9) (6-24a-3-2) (6-24b-1-3) (6-24b-3-8) (6-24b-6-8) (6-25a-6-6) (6-25b-2-6) (6-25b-3-5)
bederebumbi 「返す」	---	---
bederebu	버드러부	(6-23b-1-4)
bederebufi	버드러부피	(6-12a-1-3)
bederembi 「戻る、帰る、退く」	---	---
bedereci	버르러치	(6-18b-4-8)
bederefi	버드러피	(6-18a-6-4)
benebumbi 「送らせる」	---	---
benebuhe	버너부허	(6-10a-4-5) (6-25a-2-5) (6-25a-3-9)
benjimbi 「送ってくる」	---	---
benjihebi	번지허비	(6-11a-6-1)
benjime	번지머	(6-7a-1-4)
besergen 「寝台」	버슬건	(6-3a-1-4)
beye 「体 ; 自分」	버여	(6-1a-6-1) (6-3a-6-7) (6-9b-1-2) (6-21a-6-3) (6-25b-2-3)
bi 「私」	비	(6-5a-5-1) (6-6a-2-3) (6-6b-5-1) (6-10a-1-5) (6-12a-4-6) (6-12b-4-3) (6-13a-5-1) (6-15a-2-2) (6-15a-3-2) (6-16b-1-4) (6-18b-2-1) (6-18b-3-5) (6-20a-4-4) (6-23b-6-1) (6-24a-6-4)
bi 「ある ; いる」	비	(6-4b-5-4) (6-7b-1-2) (6-15a-1-4)

⁸ 岸田 (1997: 211) が指摘しているように、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所は ba 「所」である。

bici	비치	(6-16a-2-3) (6-19a-6-3) (6-20a-2-5) (6-23b-5-6)
bifi	비피	(6-4a-5-2)
bihe	비허	(6-1b-6-3) (6-5b-4-4) (6-8a-6-1) (6-20a-2-4)
bihebi	비허비	(6-1a-4-2) (6-4b-1-5)
bime	비머	(6-9a-6-8)
bini	비니	(6-14b-5-7)
bio	보	(6-16b-5-1)
bisirengge	비시렁거	(6-9b-3-1)
bibumbi 「留める」	---	---
bibuci	비부치	(6-23a-3-4)
bithe 「本 ; 字 ; 学識」	빈허	(6-1a-4-3) (6-1a-6-7) (6-1b-1-3) (6-3a-5-2) (6-3a-6-1) (6-7a-1-3) (6-7a-6-7) (6-7b-2-1) (6-7b-3-1) (6-7b-4-1) (6-8a-3-4) (6-10a-4-4) (6-10b-4-6) (6-10b-6-2) (6-11a-5-5) (6-12b-4-7) (6-13a-3-2) (6-13b-1-5) (6-13b-6-4) (6-14b-1-1) (6-17b-2-3) (6-17b-3-4) (6-24b-1-2) (6-25a-2-1) (6-25a-3-5) (6-25a-4-4) (6-25b-1-4) (6-25b-4-7)
biya 「月」	바	(6-10b-3-3)
bodohon 「謀、計略」	보도혼	(6-14b-1-6)
boljombi 「約束する ; 予測する」	---	---
boljoci	볼쵸치	(6-15b-1-7)
boljoho	볼쵸호	(6-13b-3-1) (6-15b-3-2)
boo 「家 ; 部屋」	보	(6-1a-5-2)
booi 「家/部屋の」	부	(6-5a-1-7) (6-20b-5-2)
bucebumbi 「死なせる」	---	---
bucebuci	부쳐부치	(6-13a-5-7)
bucembi 「死ぬ」	부첨비	(6-14a-4-6)
buceci	부쳐치	(6-15a-4-2)
bumbi 「与える」	---	---
buci	부치	(6-19b-2-4)
buhe	부허	(6-3a-2-3) (6-17b-3-7)
burengge	부렁거	(6-10a-5-2)
butambi 「漁をする ; 獵をする」	---	---
butara	부타라	(6-3b-1-2) (6-4b-4-5)
buya 「小さい ; 気が小さい ; 下賤の」	부야	(6-16b-3-2)
buyembi 「愛する ; 願う」	---	---
buyeme	부여머	(6-2a-1-6)
buyere	부여러	(6-15a-5-8)

canenggi 「一昨日」 ⁹	차닝기	(6-20b-4-4)
cashūlambi 「背を向ける ; 背く」	---	---
cashūlafi	찾후라피	(6-15b-1-1) (6-22b-5-1)
cenghiyang 「漢語丞相」 (ts'oo cenghiyang 「曹丞相」)	청향	(6-4a-3-3) (6-7a-2-1) (6-8a-2-4) (6-18b-5-2) (6-24a-5-1) (6-24a-6-6) (6-5b-2-3)
ceni 「彼らの ; 彼女たちの」	쳐니	(6-9b-1-1)
ci 「より」	치	(6-1b-3-2) (6-3a-1-5) (6-12b-4-5) (6-13b-6-2) (6-18b-4-2) (6-19b-3-4) (6-25a-5-5) (6-25a-6-4)
ci 「第〜」 ¹⁰	치	(6-10b-2-6)
cimari 「明日 ; 朝」	치마리	(6-6a-3-6)
cira 「顔、顔色」	치라	(6-11b-5-6) (6-16a-5-3) (6-22b-6-3)
cisui 「私(事)、私生活上の ; 勝手に、自ら」	치쉬	(6-6a-4-2) (6-9b-6-6)
ciyan 「漢語錢」 (ciyan tang 「錢塘」)	찬	(6-1b-5-5)
cohome 「特に」	쵸호머	(6-4a-5-3) (6-7a-1-1) (6-24b-1-6)
cooha 「兵 ; 軍」	쵸하	(6-4b-1-6) (6-4b-3-4) (6-5a-3-1) (6-6a-3-7) (6-7a-2-6) (6-7b-6-4) (6-9a-6-3) (6-9b-6-4) (6-10a-3-3) (6-15b-4-2) (6-18b-2-2)
coohai 「兵/軍の」	쵸해	(6-4a-2-1) (6-12b-4-6) (6-13b-6-3)
cuwan 「漢語船」	찬	(6-10a-3-6)
cuwan 「漢語權」 ¹¹ (sun cuwan 「孫權」)	찬	(6-2a-1-1)

⁹ 岸田 (1997: 85, 134) によれば、当該語は『増訂清文鑑』・『同文類解』・『大清全書』・『滿漢同文全書』・『同文広彙全書』・『滿漢事類集要』・『滿漢類書』のいずれにおいても cananggi と綴られている。また、『同文物名類集』(上-12b)における満洲文字と漢字注音はそれぞれ cinenggi と「渣能機」であり、「渣能機」から推定すると、cinenggi は canenggi の誤記である可能性がある。『三譯総解』の当該箇所では canenggi と綴られている。なお、岸田 (1997: 215) によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも cananggi である。

¹⁰ 『三譯総解』原書において jiyān nan i juwan juwe ci aniya で「建安十二年」を表している。この ci は、「第〜」を表す序数詞接辞であると考えられる。『滿漢合璧三国志』の対応箇所(10-28a-3-5/6/7)においても、juwan juwe ci と綴られている。また、筆者の確認によれば、順治十二年 (1655) 三月刻「王法哈墓碑」には満文 ijishūn dasan i juwan juwe ci aniya...が見られ、ここでも juwan juwe ci と綴られている。画像は北京圖書館金石組 (1989) 『北京圖書館藏中國歴代石刻拓本匯編』(「匯」は表紙では異体字「滙」と表記される) 第六十一冊 75 頁を参照されたい。なお、Norman (1965: 15) は序数詞接辞の -ci について、「-ci is sometimes written separately: juwan juwe ci 'twelfth」と記述している。

juwan juwe ci 「第 12」は通常 juwan juweci と綴られ、juwe と ci は分書されない。例えば、『増訂清文鑑』の見出し語 gurun de aisilara janggin 「輔國將軍」の説明文「juwan juweci jergingge be, gurun de aisilara janggin sembi.」および見出し語 bithe wesimbure enduri 「奏書」の説明文「aniyai enduri dorgi juwan juweci de bi, aniyai wesihun enduri, wesimbure ejere, kincire baicara baita be alihabi.」には、いずれも juwan juweci の形式が見られる。

¹¹ 『對音輯字』(下巻第 37 葉 b 面) では、漢字「權」に対応する満洲文字は kiowan である。一方、『三譯総解』全十巻において「孫權」の満洲文字表記は 48 例出現しているが、いずれも sun cuwan と綴られている。

dabumbi 「数の内に入れる ; 点ける」	---	---
dabufi	다부피	(6-5a-2-3)
daci 「もとより」	다치	(6-16a-1-2)
dade 「初めに」	다더	(6-1a-3-8) (6-9a-6-2)
dagilambi 「準備する」	---	---
dagilafi	다기라피	(6-17a-6-2)
dahambi 「従う ; 投降する」	다함비	(6-17a-5-5)
daha (命令)	다하	(6-23b-4-4)
dahaci	다하치	(6-13b-1-7)
dahaduhai ¹²	다하두해	(6-10a-3-7)
dahafi	다하피	(6-7a-2-3)
dahaha	다하하	(6-9b-5-4)
dahaki	다하키	(6-22b-5-4)
dahame	다하머	(6-2a-6-8) (6-6b-6-1) (6-9b-4-8) (6-18b-4-5)
dahara	다하라	(6-7a-6-6) (6-11a-5-4) (6-23b-5-4)
daharengge ¹³	다하렁거	(6-16b-2-5)
dahashūn 「従順な」	다하훈	(6-3b-3-8)
dahūmbi 「繰り返す」	---	---
dahūme	다후머	(6-6a-1-3)
dahūn (dahūn dahūn i 「度々」)	다훈	(6-10b-6-6) (6-10b-6-7) (6-19a-3-8) (6-19a-4-1)
daldambi 「隠す」	---	---
daldara	달다라	(6-4a-4-7) (6-7a-1-2)
dalin 「岸」	다린	(6-3b-3-2)
damu 「もっぱら ; ただ ; かし」	다무	(6-1a-5-1) (6-4b-4-3) (6-9a-3-3) (6-15a-4-1) (6-15b-5-2) (6-17a-5-1) (6-21a-6-1) (6-25b-3-1)
dasambi 「改める ; 治す ; 治める」	---	---
dasame 「改めて」	다사머	(6-18b-4-7)
de 「こ ; で」	더	(6-1a-4-4) (6-1a-6-4) (6-2a-6-4) (6-2b-4-5) (6-3b-1-7) (6-3b-6-7) (6-4a-2-3) (6-4a-3-4)

¹² 当該語は、『増訂清文鑑』では dahanduhai と綴られている。見出し語 dahanduhai 「隨即」を参照されたい。一方、『大清全書』では dahaduhai と綴られている。見出し語 dahaduhai 「相隨。隨即。旋踵。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では dahaduhai と綴られている。なお、岸田 (1997: 210) によれば、『三譯総解』の当該箇所における cuwan dahaduhai に対応する『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所は、いずれも cuwan i dahaduhai である。しかし、少なくとも筆者が参照した『滿漢合璧三国志』では、当該箇所(10-28a-1-1)においては dahaduhai ではなく dahanduhai と綴られている (du の d はやや印刷が不鮮明であるが)。筆者が参照した『滿漢合璧三国志』は、次のウェブサイトを確認できる (最終確認日=2026年3月30日)。

https://digital.staatsbibliothek-berlin.de/werkansicht?PPN=PPN3346157784&PHYSID=PHYS_0961&DMDID=DMDLOG_0001

¹³ 母音調和に従えば、daharengge ではなく、daharangge のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、daharengge に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 213) によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも daharangge である。

		(6-4a-4-6) (6-4b-1-4) (6-5b-3-3) (6-6a-3-9) (6-7a-2-2) (6-7b-3-5) (6-7b-4-2) (6-9a-6-5) (6-9b-3-2) (6-9b-4-4) (6-9b-5-5) (6-10a-1-4) (6-10b-3-4) (6-10b-6-4) (6-11b-5-2) (6-14a-2-5) (6-14a-3-7) (6-15b-1-3) (6-15b-3-3) (6-15b-4-5) (6-16a-6-3) (6-17a-1-5) (6-17a-4-5) (6-17a-5-3) (6-18a-3-5) (6-18a-5-2) (6-18a-6-3) (6-19b-5-2) (6-19b-5-6) (6-20b-2-8) (6-21a-2-4) (6-21b-3-5) (6-21b-6-2) (6-22b-5-3) (6-23a-3-3) (6-23a-4-1) (6-23a-4-4) (6-23b-5-3) (6-24a-3-7) (6-24a-5-2) (6-25a-2-4) (6-25a-3-8) (6-25a-4-5) (6-25b-1-5)
de 「漢語徳」 (de žun 「徳潤」)	더	(6-1a-2-6)
dedumbi 「横になる」	---	---
dedufi	더두피	(6-10b-1-2)
dekdembi 「浮く；鳥が飛び立つ；日が昇る；起こる」	---	---
dekdehebi	덕더허비	(6-3b-5-6)
dele 「上(に)；皇上」	더러	(6-17a-2-8)
den 「高い」	던	(6-11a-3-1)
dengjan 「灯火(漢語灯盞)」	등잔	(6-5a-2-2)
dere 「顔；机；方」	더러	(6-7b-3-4) (6-10b-6-3) (6-11a-2-2)
dere 「～であろう」	드리	(6-13a-1-5) (6-15a-4-4) (6-23b-6-3)
dergi 「上；東」	덜기	(6-2b-4-2) (6-4a-4-1) (6-5a-5-4) (6-6a-2-4) (6-6a-6-5) (6-7b-5-1) (6-8b-3-2) (6-9a-1-2) (6-18a-6-2) (6-18b-4-1) (6-19b-5-1) (6-21b-3-3)
deribumbi 「始める」	더리븀비	(6-25a-6-7)
deyembi 「飛ぶ」	---	---
deyere	더여러	(6-19b-4-4)
dobori 「夜」	도보리	(6-3a-6-6) (6-3b-4-3) (6-4a-6-2)
dolo 「内；心中；腹中」	도로	(6-5a-2-1) (6-20a-5-3) (6-20b-6-4)
dolori 「内側；心密かに」	도로리	(6-17b-6-3)
dombi 「川を渡る」	---	---
dome	도머	(6-18b-1-5)
donjimbi 「聴く」	---	---
donjici	돈지치	(6-5a-5-2) (6-5b-2-1)
donjire	돈지러	(6-15a-5-6)
dorgi 「内」	돌기	(6-8b-6-5) (6-13a-3-4) (6-22b-3-2) (6-23b-1-7) (6-25a-6-3)
doro 「道理；礼儀」	도로	(6-12b-5-6) (6-14b-2-1) (6-15a-2-8) (6-16b-4-5)

dorolombi 「礼を執る」	---	---
dorolofi	도로로피	(6-16a-3-1)
dosimbumbi 「入れる」	---	---
dosimbume	도심부머	(6-22a-5-8)
duin 「四」	뒀	(6-21b-4-2) (6-24b-5-1)
dulimba 「中央」	두림바	(6-8b-4-2)
dze 「漢語沢」 (g'an dze 「鬩沢」)	저	(6-1a-2-2) (6-2a-5-2) (6-2b-5-2) (6-3a-2-5) (6-3a-5-6) (6-4a-3-1) (6-4a-4-5) (6-5a-3-5) (6-5b-1-2) (6-6a-5-5) (6-7b-1-4) (6-11b-4-6) (6-11b-5-4) (6-12a-4-4) (6-12b-2-3) (6-13a-2-4) (6-13b-4-3) (6-14a-6-3) (6-15a-1-6) (6-15a-6-2) (6-16b-1-2) (6-17a-3-4) (6-17b-6-2) (6-18b-3-3) (6-19a-3-1) (6-19b-2-6) (6-20a-4-2) (6-20b-2-2) (6-20b-4-2) (6-21a-3-6) (6-21a-5-1) (6-22a-1-2) (6-22a-4-6) (6-22b-2-5) (6-22b-6-2) (6-24a-2-3) (6-24a-6-2) (6-25a-3-2) (6-25b-1-2)
dzung 「漢語中」 (ts'ai dzung 「蔡中」)	중	(6-18a-1-1) (6-20a-5-5) (6-21a-2-6) (6-22a-4-2) (6-22b-4-2) (6-23a-5-2) (6-24a-3-4) (6-24a-4-2) (6-25a-1-3) (6-25a-4-2)
ebumbi 「降りる」	---	---
ebuŋi	어부피	(6-3a-1-6)
ede 「これに因り」	어더	(6-11a-6-2)
efujembi 「壊れる」	어푸점비	(6-10a-1-1) (6-23a-4-7)
eiterembi 「欺く」	에터럼비	(6-11b-1-5)
eiterere	에터러러	(6-12b-5-5)
ejen 「君主；主」	어전	(6-15a-6-4) (6-24b-3-7)
ekšembi 「急ぐ」	---	---
ekšeme	억셔머	(6-23a-5-5)
elemangga 「却って」	어리망가	(6-13b-5-5)
elhešembi 「ゆっくりする」	---	---
elhešeci	얼혀셔치	(6-3a-3-3)
eme 「母」	어머	(6-16b-3-5)
emgeri 「一度；既に」	엄거리	(6-18b-4-3)
emgi 「一緒に」	엄기	(6-6b-5-5) (6-16b-2-1) (6-18a-6-9) (6-25a-6-2)
emhun 「一人で；老いて子のいない」	엄훈	(6-3b-2-1)
emu 「一」	어무	(6-1b-1-5) (6-4b-4-6) (6-6a-1-4) (6-17a-6-4) (6-21b-4-4) (6-22a-3-2) (6-24b-5-3) (6-25a-3-4) (6-25b-4-3)

encu 「別の」	언츄	(6-25a-3-3)
erde 「朝；早い」	얼더	(6-4a-1-1)
erdemungge 「才徳のある」	얼더몽거	(6-21a-6-5)
ere 「この；これ；この人」	어리	(6-5b-4-6) (6-14b-4-5)
ergen 「息；命」	얼건	(6-2b-3-4) (6-2b-6-4) (6-14a-4-3)
ergi 「方向」	얼기	(6-11b-4-3)
erin 「時」	어린	(6-10a-1-3) (6-13b-2-4)
ese 「この人たち」	어서	(6-23a-2-4)
eyembi 「流れる；目方が足りない」	---	---
eyere	어여러	(6-1b-4-1)
eyen 「流れ」	어연	(6-3b-3-6)
fakcambi 「離れる、別れる」	---	---
fakcafi	팍차피	(6-19b-3-5)
fakcaha	팍차하	(6-18b-4-4)
faksi 「巧みな；職人」	팍시	(6-20a-2-2)
fejergi 「下」	퍼절기	(6-8b-2-1) (6-9b-6-3)
fejile 「下(に)」	퍼지러	(6-8a-3-2)
feo 「漢語覆」 ¹⁴ (gung feo 「公覆」) (hūwang gung feo 「黄公覆」)	포	(6-2b-3-3) (6-6b-5-3) (6-5b-6-3) (6-6a-6-4) (6-7a-5-5) (6-12a-5-5) (6-16b-1-7) (6-18a-6-7)
firgembumbi 「秘密を洩らす」	필검뵤비	(6-19a-2-2)
fonjimbi 「問う」	---	---
fonjifi	폰지피	(6-12b-3-3)
fonjime	폰지머	(6-20b-3-3)
fonjirakū	폰지라쿠	(6-6a-5-2)
fonjire	폰지러	(6-5b-5-1)
forimbi 「叩く、打つ」	---	---
forime	포리머	(6-11a-2-6)
funcembi 「余る」	---	---
funceme	푼쳐머	(6-11a-1-3)
fung 「漢語鋒」 (siyan fung 「先鋒」)	푼	(6-7b-6-7) (6-10a-2-4)
funglu 「漢語俸禄」	푼루	(6-17a-4-2)
funiyehe 「髮；毛」	푼녀허	(6-21b-6-3)
gaimbi 「とる」	---	---
gaici	개치	(6-8b-5-2)
gaifi	개피	(6-2a-5-5) (6-3a-6-3) (6-7b-3-3) (6-9b-5-3)
gaihakū	개하쿠	(6-19b-3-2)




¹⁴『對音輯字』(上卷第 17 葉 a 面)では、漢字「覆」に対応する満洲文字は fu である。一方、『三譯総解』の(6-2b-3-2/3)などにおいては、「公覆」を表す語が gung feo に対応する形で現れている。なお、『三譯総解』の(3-1a-4-7/-5-1)においては、「公覆」を表す語が gung fu に対応する形で現れている。

gajara	개자라	(6-6b-6-4) (6-7a-4-2) (6-10b-1-4)
gajarakū	개자라쿠	(6-7a-4-3)
gaiki	개키	(6-11a-6-4)
gaimbihe	괌비허	(6-20a-3-6)
gaitai 「突然」	개태	(6-11a-2-1)
gajimbi 「持って/取って/連れてくる; 取り/連れに来る」 ¹⁵	---	---
gaji	가지	(6-17b-2-4)
gajifi	가지피	(6-2a-1-7)
gajiha	가지하	(6-4b-5-2)
gajime	가지머	(6-5a-3-7)
gala 「手」	가라	(6-11a-2-4) (6-14a-3-6)
gamambi 「持って/取って/連れていく」	---	---
gamaci	가마치	(6-12a-3-1)
gamafi	가마피	(6-11b-3-2)
gamara	가마라	(6-11b-5-1)
ganabumbi 「取り/連れに行かせる」	---	---
ganabuha	가나부하	(6-4b-6-3)
gasambi 「怨む」	가삼비	(6-22b-2-3)
gebu 「名」	거부	(6-1a-2-5) (6-2a-1-4)
gelgun (gelgun akū 「敢えて〜」) ¹⁶	결군	(6-11b-1-2)
gemu 「皆」	거무	(6-8b-6-7) (6-9a-3-1) (6-12b-6-1)
genembi 「行く」	---	---
gene	거너	(6-19a-5-6)
geneci	거너치	(6-19b-1-3) (6-20b-1-1) (6-19a-1-4)
geneki	거너키	(6-20a-6-1)
genembihe	거넘비허	(6-15b-4-4)
genggiyen 「清い; 聡明な」	경견	(6-16a-1-4) (6-24b-3-6)
geren 「多くの; すべての; 衆人」	거런	(6-6b-2-3) (6-8b-4-8) (6-8b-5-3) (6-9b-5-1) (6-17a-2-5) (6-25b-5-4)
gerenembi 「空が明るくなる」	---	---
gerenere	거리너러	(6-5a-1-2)
gese 「〜のような」	거서	(6-2b-6-1) (6-19b-4-5)
getuken 「明白な」	거투컨	(6-13b-2-1)
gicuke 「恥ずべき」	기츄커	(6-2b-2-8)

¹⁵ gaji- の意味に関しては、早田輝洋 (1993) を参照されたい。

¹⁶ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても gelhun と綴られている。なお、岸田 (1997: 210) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、それぞれ gelgun と gelhun である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯総解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。

gidabumbi「圧迫される;塩漬けにさせる;鶏に卵を抱かせる;打ち負かされる;魘される」	---	---
gidabure	기다부러	(6-14b-3-4)
gidambi「押さえる;打ち負かす;頭を垂れる;塩漬けにする;鳥が卵を抱く;隠す」	---	---
gidafi	기다피	(6-22a-3-1)
ging「漢語更(初更などの更)」	깁	(6-3b-6-2)
ginggulembi「敬う」	---	---
gingguleme	깁구러머	(6-8a-3-3)
giranggi「骨」	기랑기	(6-6b-5-6)
girubumbi「辱める」	---	---
girubume	기루부머	(6-6b-2-8)
girumbi「恥じる」	기룸비	(6-21b-3-8)
girure	기루러	(6-13b-5-2)
gisun「言葉」	기순	(6-2a-3-4) (6-5b-1-6) (6-15a-1-3) (6-15a-5-4) (6-20a-2-1) (6-22a-5-6) (6-23b-1-8)
gisurebumbi「話させる」	---	---
gisurebume	기수러부머	(6-14b-6-1)
gisurembi「話す」	---	---
gisure	기수러	(6-23b-3-2)
gisureci	기수러치	(6-23b-2-5)
gisurefi	기수러피	(6-25a-1-1)
gisureme	기수러머	(6-13a-3-6)
gisurerakū	기수러라쿠	(6-21b-5-5)
gisurere	기수러러	(6-13b-3-6) (6-15a-3-4)
giyan「理」	간	(6-14b-2-2)
giyan (giyan giyan i「一つ一つ明白に」)	간	(6-19b-6-5) (6-19b-6-6)
giyang「漢語江」	강	(6-4a-1-3) (6-8b-2-5) ¹⁷ (6-18a-5-4) (6-18b-3-6) (6-19b-4-6) (6-21b-3-1)
gocimbi「吸う;水が退く;虹が出る;刀を抜く;軍隊を引き上げる;仕付け縫いする;笙を吹く;胡琴を弾く;酒を搾る;糸を繰る;巻狩りの囲みを引き緊める;角力で相	---	---

¹⁷ 原書における「강」は通常「」のような字形で記されるが、(6-8b-2-5)の「강」は、「」の字形を呈しており、右上の「ㅏ」にある二本の横画が「く」のような形で現れている。満洲文字の sy () の中部の形状に類似している。

手を自分の方に引き寄せる」		
gocifi	고치피	(6-23a-1-5)
goidambi 「久くなる」	---	---
goidafi	괴다피	(6-18a-4-3)
goidaha	괴다하	(6-19a-4-4)
goidame	괴다머	(6-19a-6-2)
golmin 「長い」	골민	(6-22a-3-5)
gosiholombi 「慟哭する；苦しむ」	---	---
gosiholoro	고시호로로	(6-11a-4-5) (6-12a-2-4)
gosihūn 「苦い；苦しい」 ¹⁸	고시훈	(6-20a-3-4)
gung 「漢語功」	궁	(6-2a-6-9) (6-9b-2-6) (6-11a-6-3) (6-17a-1-2)
gung 「漢語公」 (gung feo 「公覆」) (hūwang gung feo 「黄公覆」) (ts'oo gung 「曹公」)	궁	(6-16b-6-4) (6-20a-1-5) (6-23a-6-2) (6-23b-5-2) (6-2b-3-2) (6-6b-5-2) (6-5b-6-2) (6-6a-6-3) (6-7a-5-4) (6-12a-5-4) (6-16b-1-6) (6-18a-6-6) (6-23b-4-1)
gungge (gungge amban 「功臣」)	궁거	(6-6b-1-3)
gurun 「国」	구룬	(6-2b-4-4) (6-4a-4-3) (6-5a-5-6) (6-6a-3-2) (6-6a-6-7) (6-7b-5-3) (6-8b-4-4) (6-9a-1-4) (6-25a-5-4)
gūnimbi 「思う」	---	---
gūnici	구니치	(6-6b-6-2)
gūniha	구니하	(6-24b-6-6)
gūnihangge	구니항거	(6-5b-6-5)
gūnime	구니머	(6-17b-6-4)
gūnirakū	구니라쿠	(6-21b-1-4)
gūnire	구니러	(6-16a-6-6)
gūnin 「心；意；考え」	구닌	(6-9a-4-8) (6-21a-5-3) (6-21b-2-4)
gūwa 「別の；別の人」	괘	(6-1a-6-3) (6-13a-1-1) (6-18b-6-1) (6-19a-1-3)
g'ai 「漢語蓋」 (hūwang g'ai 「黄蓋」)	개	(6-2a-3-2) (6-3a-1-2) (6-3a-4-3) (6-8a-1-1) (6-8a-4-2) (6-9b-4-2) (6-10b-4-1) (6-11a-4-2) (6-18a-1-5) (6-19b-5-5) (6-20a-1-3) (6-20a-3-2) (6-20a-6-3) (6-24a-2-5) (6-25b-2-2)

¹⁸ 当該語は、『増訂清文鑑』では gosihon と綴られている。gosihon 「苦」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』には、gosihon と gosihūn の両綴りが収録されている。gosihon 「苦辣。痛。酷。葷。哀。苦辨。」や durime wame yabuhangge umesi gosihūn jalin 「爲抄殺大冤事。」などを参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では gosihūn と綴られている。なお、岸田 (1997: 214) によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも gosihon である。

g'an 「漢語闕」 ¹⁹ (g'an dze 「闕沢」)	간	(6-1a-2-1) (6-2a-5-1) (6-2b-5-1) (6-3a-2-4) (6-3a-5-5) (6-4a-2-5) (6-4a-4-4) (6-5a-3-4) (6-5b-1-1) (6-6a-5-4) (6-7b-1-3) (6-11b-4-5) (6-11b-5-3) (6-12a-4-3) (6-12b-2-2) (6-13a-2-3) (6-13b-4-2) (6-14a-6-2) (6-15a-1-5) (6-15a-6-1) (6-16b-1-1) (6-17a-3-3) (6-17b-6-1) (6-18b-3-2) (6-19a-2-4) (6-19b-2-5) (6-20a-4-1) (6-20b-2-1) (6-20b-4-1) (6-21a-3-5) (6-21a-4-7) (6-22a-1-1) (6-22a-4-5) (6-22b-2-4) (6-22b-6-1) (6-24a-2-2) (6-24a-6-1) (6-25a-3-1) (6-25b-1-1)
g'an 「漢語甘」 (g'an ning 「甘寧」)	간	(6-20a-4-6) (6-20b-2-4) (6-20b-3-1) (6-21a-1-3) (6-21a-3-7) (6-21a-4-5) (6-21b-5-1) (6-22a-1-4) (6-22a-2-3) (6-22a-4-7) (6-23a-1-1) (6-23b-2-2) (6-23b-6-4) (6-24b-1-7) (6-24b-3-1) (6-25a-5-1)
hafan 「官吏」	하판	(6-1b-6-1) (6-2a-1-10) (6-5a-5-10) (6-7b-6-1) (6-17a-2-3) (6-17a-4-1)
hafirahūn 「狭い；貧乏な」	하피라훈	(6-15b-3-4)
hafumbi 「貫通する；通曉する」	---	---
hafuci	하푸치	(6-14b-1-3)
haha 「男」	하하	(6-2a-6-2) (6-24b-3-4)
hairaka 「惜しむべき」 ²⁰	해라카	(6-14a-4-1)
hairambi 「惜しむ；慈しむ」	해람비	(6-2b-6-6)
hairandarakū ²¹	해란다라쿠	(6-2b-4-1)
hala 「姓」	하라	(6-8a-4-4)
hanci 「近い」	한치	(6-10a-5-3)
hanjan 「清廉な」 ²²	한잔	(6-1b-5-1)

¹⁹ 『對音輯字』(上巻第44葉a面)では、漢字「闕」に対応する満洲文字は k'an である。一方、『三譯総解』において「闕澤」は45例出現しているが、いずれも g'an dze の形で現れている。王海波(2026c: 10)を参照されたい。

²⁰ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』ではそれぞれ hairaka と hairakan と綴られている。『大清全書』における見出し語 ai hairaka 「何足惜。」および『増訂清文鑑』における見出し語 hairakan 「很可惜」を参照されたい。なお、岸田(1997: 84, 225, 230)によれば、『三譯総解』には hairaka が複数回出現しているが、『満漢合璧三国志』の対応箇所においても語形は hairakan である。一方、『満文三国志』の対応箇所には、hairaka と hairakan の両形が見られる。

²¹ Yang(2025: 73)は動詞語幹 hairan- を想定し、これに付く未完了連体接辞(原文では nonpast participle suffix 「非過去分詞接尾辞」)には -ndArA と -rA の両形が存在すると述べている。

²² 当該語は、『増訂清文鑑』では hanja と綴られている。hanja 「廉」や hanja 「愛乾淨」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』には、hanja と hanjan の両綴りが収録されている。hanja 「廉能之廉」、hanjan bolho 「廉静」、hanjan mutere 「廉幹。」などの見出し語を参照されたい。清代辞書における当該語の綴りについては、岸田(1997: 86)も参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では hanjan と綴られている。なお、岸田(1997: 207)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも hanja である。

hashū 「左」	하후	(6-11b-4-1)
hebei (hebei amban 「参贊大臣 議政大臣」)	허배	(6-25b-5-5)
hebušembi 「相談する、協議する」 ²³	허부섭비	(6-25b-6-3)
hefeli 「腹」	허퍼리	(6-22b-3-1) (6-23b-1-6)
hendumbi 「言う」	---	---
hendu	헌두	(6-4a-5-7)
henduhe	헌두허	(6-6a-1-6)
henduhengge	헌두형거	(6-7b-4-3) (6-25a-4-6) (6-25b-1-6)
hendume	헌두머	(6-2a-5-6) (6-3a-2-6) (6-3a-5-1) (6-4a-3-2) (6-4b-2-3) (6-5a-4-4) (6-5b-1-3) (6-6a-2-2) (6-6a-6-1) (6-7a-5-2) (6-11a-3-5) (6-12a-1-4) (6-12a-4-5) (6-12b-1-2) (6-12b-2-4) (6-12b-4-2) (6-13a-3-1) (6-13a-4-3) (6-13b-4-6) (6-14a-5-2) (6-14a-6-4) (6-14b-4-4) (6-15a-2-1) (6-15a-5-2) (6-15a-6-3) (6-16a-3-2) ²⁴ (6-16b-1-3) (6-16b-5-5) (6-17a-3-5) (6-17b-2-2) (6-18a-4-4) (6-18b-3-4) (6-19a-1-2) (6-19a-5-3) (6-20a-1-4) (6-20a-4-3) (6-20a-6-4) (6-20b-4-3) (6-21a-5-6) (6-22a-6-1) (6-22b-2-6) (6-22b-4-3) (6-23a-1-6) (6-23a-5-6) (6-23b-2-4) (6-23b-3-5) (6-24a-1-1) (6-24a-4-5) (6-24a-6-3) (6-24b-3-3)
hengkilembi 「叩頭する」	---	---
hengkileme	헝키러머	(6-3a-2-1) (6-8a-2-2) (6-10b-4-5)
hese 「教旨；言葉」	히스	(6-9b-4-6)
hiya 「旱魃」	하	(6-5b-3-2)
hiyoošungga 「孝行な」 ²⁵	호승가	(6-1b-4-3)
ho 「漢語和」 (ts'ai ho 「蔡和」)	호	(6-18a-1-3) (6-20a-5-7) (6-21a-3-2) (6-22a-4-4) (6-23a-5-4) (6-23b-3-4) (6-24a-3-6) (6-24a-4-4)
holkon (holkon de 「突然」)	홀곤	(6-21a-2-3)
holo 「嘘；山谷；牝瓦；畝の間の溝」	호로	(6-8b-3-7)
holtombi 「騙す」	---	---

²³ 当該動詞の語幹が清代諸辞書における形式は岸田 (1997: 86-87) を参照されたい。また、岸田 (1997: 217-218) によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも hebšembi である。

²⁴ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「헌두머」が「헌드머」のように見えるが、本来は「헌두머」と書かれていたものと考えられる。

²⁵ 『五體清文鑑譯解』(田村ほか 1966-1968) 上巻 303 頁には「hiyoošun 孝. 孝行の音譯。」との記述がある。しかし、hiyoošun は漢語の「孝行」ではなく、「孝順」に由来すると考えられる。Schmidt (1933: 259) も、hiyoošun の語源は漢語の「孝順」であることに言及している。

holtoci	홀토치	(6-13a-1-3) (6-13a-2-1)
holtoho	홀토호	(6-13a-5-3) (6-16b-4-4)
holtohobi	홀토호머	(6-13a-4-1)
holtome	홀토머	(6-11a-5-3) (6-23b-4-3)
hungkerembi 「流し込む」	---	---
hungkereme	흥커러머	(6-16b-2-4)
hūdulembi 「速くする」 ²⁶	---	---
hūduleme	후두러머	(6-4a-3-5)
hūdun 「速い」	후둔	(6-23b-3-1)
hūi 「漢語会」 ²⁷ (hūi ji san in 「会稽山陰」)	휘	(6-1a-2-8)
hūlambi 「読む; 呼ぶ; 雄鶏が 鳴く」	후람비	(6-1b-1-1)
hūlafi	후라피	(6-11b-2-7) (6-12b-5-3)
hūlaha	후라하	(6-13b-6-7)
hūlame	후라머	(6-11a-3-4)
hūsun 「力」	후순	(6-10a-5-1) (6-24b-4-1)
hūwang 「漢字黄」 (hūwang gung feo 「黄公 覆」) (hūwang g'ai 「黄蓋」)	황	(6-5b-6-1) (6-6a-6-2) (6-7a-5-3) (6-12a-5-3) (6-16b-1-5) (6-18a-6-5) (6-2a-3-1) (6-3a-1-1) (6-3a-4-2) (6-7b-6-8) (6-8a-4-1) (6-9b-4-1) (6-10b-3-5) (6-11a-4-1) (6-18a-1-4) (6-19b-5-4) (6-20a-1-2) (6-20a- 3-1) (6-20a-6-2) (6-24a-2-4) (6-25b-2-1)
i 「の; で」	이	(6-1a-2-3) (6-1a-3-4) (6-1a-3-6) (6-1b-5-2) (6-2a-1-3) (6-2b-2-3) (6-2b-2-7) (6-2b-5-5) (6-3b-3-3) (6-3b-3-7) (6-3b-5-4) (6-3b-6-5) (6-4b-1-2) (6-4b-3-5) (6-5a-3-2) (6-5a-5-7) (6-5b-1-5) (6-6a-3-3) (6-6a-6-8) (6-6b-1-2) (6-6b-2-6) (6-6b-5-4) (6-7a-2-7) (6-7b-5-4) (6-7b-6-3) (6-7b-6-5) (6-8a-3-1) (6-8a-4-5) (6-8b-1-5) (6-8b-3-5) (6-8b-3-8) (6-8b-4-1) (6-8b-4-3) (6-8b-4-5) (6-9a-2-1) (6-9a-2-3) (6-9a-4-5) (6-10b-2-3) (6-10b-6-8) (6-11a-2- 5) (6-11a-3-3) (6-11b-2-4) (6-11b-5-5) (6-

²⁶ 母音調和に従えば、当該語の語幹は、hūdule- ではなく、hūdula- のはずである。また、当該語の語幹は、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても hūdula- と綴られている。『大清全書』における見出し語 hūdulame boolan 「速報。」および『増訂清文鑑』における hūdulambi 「快著」などの見出し語を参照されたい。一方、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも hūduleme に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 208) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも hūdulame である。

²⁷ 邵磊・多麗梅 (2023: 199) は、『三譯総解』に見られる二重母音の例を整理しているが、ūi (原文では oj と表記) の例の欄は空欄となっている。これは、『三譯総解』には ūi を含む語が出現していないことを示唆している。しかしながら、筆者が参照した『三譯総解』では、(6-1a-2-8)に hūi 「会」(hūi ji san in 「会稽山陰」の一部) が見られ、ūi を含む例が実際に存在する。岸田 (1989: 23) も、『三譯総解』における ūi の例として hūi を挙げている。

		13a-3-3) (6-13b-1-4) (6-13b-2-2) (6-14a-3-5) (6-16b-1-8) (6-17a-1-1) (6-17a-2-7) (6-17a-4-3) (6-17b-1-2) (6-17b-1-4) (6-18a-6-8) (6-18b-2-3) (6-19a-3-3) (6-19a-4-2) (6-19b-6-7) (6-20a-4-9) (6-21a-5-2) (6-23b-1-2) (6-24b-2-2) (6-25b-1-3) (6-25b-4-5)
ici 「右 ; 方向」	이치	(6-11b-4-2)
ilaci 「第三」	이라치	(6-3b-6-1)
ilan 「三」	이란	(6-6a-6-9)
ilibumbi 「立たせる ; 立てる ; 止める」	---	---
ilibume	이리부머	(6-2b-1-2) (6-17a-1-3)
ilimbi 「立つ ; 起きる ; 止まる ; 休む」	---	---
ilifi	이리피	(6-23a-1-3)
in 「漢語陰」 (hūi ji san in 「会稽山陰」)	인	(6-1a-3-3)
inenggi 「日」	이녕기	(6-13b-2-3) (6-15b-1-5) (6-15b-3-1) (6-17a-2-1) (6-18b-1-1) (6-25b-2-5)
ing 「漢語營」	잉	(6-3b-6-6) (6-4b-1-3) (6-20a-5-1) (6-20b-2-7) (6-23a-3-2)
ini 「彼の ; 彼女の」	이니	(6-1a-5-5) (6-9b-6-5) (6-21a-6-2)
injembī 「笑う」	인점비	(6-11b-6-6) (6-12a-4-2) (6-12a-6-6) (6-17b-5-3)
injeme	인저머	(6-13b-4-5) (6-21a-2-1)
injerengge	인저렁거	(6-12a-5-1)
inu 「そうだ ; 是 ; も」	이누	(6-5b-6-6) (6-13a-6-2) (6-24a-6-5)
ioi 「漢語瑜」 (jeo ioi 「周瑜」)	우	(6-9a-4-2) (6-9b-6-2) (6-14a-2-2)
isabumbi 「集める ; 髪を編ませる」	---	---
isabufi	이사부피	(6-25b-6-2)
isinambi 「着く、至る」	---	---
isinafi	이시나피	(6-4a-1-2)
jabdumbi 「間に合う」	---	---
jabdurakūci	잡두라쿠치	(6-15b-3-6)
jabumbi 「答える」	---	---
jaburakū	자부라쿠	(6-21a-2-2)
jaburengge	자부렁거	(6-1b-3-7)
jafabumbi 「取らせる ; 取られる ; 掴まれる ; 掴ませる ; 逮捕させる ; 逮捕される」	자파븨비	(6-14a-2-7)
jafabuha	자파부하	(6-4a-2-4)

jai 「第二；再び；更に」	재	(6-18b-4-6) (6-19a-5-2)
jaka 「物；隙間；所；～たばかり」	자카	(6-2b-2-2)
jakade 「～の所に/で；～ので」	자카더	(6-4b-2-1) (6-6b-3-2) (6-17b-1-5) (6-17b-3-1) (6-20a-1-1) (6-20b-5-3) (6-21a-4-4) (6-22a-2-2) (6-24a-6-8) (6-24b-2-3) (6-25b-5-2)
jalan 「世；世代；節；兵の一隊；甲喇(軍団の単位)」	자란	(6-2a-6-3) (6-6b-1-1) (6-9a-6-6)
jalin 「為」	자린	(6-17a-4-4)
jalu 「満ちた」	자루	(6-3b-5-5)
jeku 「穀物；糧食」	저쿠	(6-7a-2-4) (6-7b-5-5) (6-10a-3-1)
jenduken 「いくらか密かに」	전두켄	(6-6b-4-5)
jeo 「漢語周」 (jeo ioi 「周瑜」) (jeo lang 「周郎」)	전	(6-9a-4-1) (6-9b-6-1) (6-14a-2-1) (6-6b-2-1)
jergi 「階級；類い；回；凡庸な」	절기	(6-1b-2-1) (6-6a-1-5) ²⁸ (6-11a-1-2) (6-21a-6-8) (6-22a-3-4)
ji 「漢語稽」 (hūi ji san in 「会稽山陰」)	지	(6-1a-3-1)
jilgan 「声；音」	질간	(6-11a-3-2)
jimbi 「来る」	---	---
jici	지치	(6-6a-4-4) (6-7a-6-5)
jifi	지피	(6-5a-3-8) (6-19b-5-3)
jihe	지허	(6-5a-6-5) (6-7a-3-4) (6-20b-2-9) (6-20b-3-8) (6-21a-3-3) (6-24b-2-4)
jihebi	지허비	(6-4a-5-5)
jiramin 「厚い」	지라민	(6-8a-4-6)
jiyan 「漢語建」 (jiyan nan 「建安」)	잔	(6-10b-2-1)
jiyangjiyūn 「漢語將軍」 ²⁹	장쥘	(6-6b-2-4) (6-8a-5-4) (6-20b-5-4) (6-22a-6-2)
jiyansi 「漢語奸細」 ³⁰	잔시	(6-4b-3-1)
jiyūn 「漢語郡」 (ninggun jiyūn 「六郡」)	쥘	(6-8b-3-4)
jobombi 「苦勞する；憂える」	---	---
joboro	쥬보로	(6-23a-6-4)
jortai 「故意に」	졸태	(6-22a-1-3)

²⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「절기」のうち、「기」の印刷が不鮮明である。

²⁹ 当該語は『増訂清文鑑』では jiyanggiyūn と綴られている。『大清全書』には jiyanggiyūn と jiyangjiyūn の両綴りが収録されている。なお、『大清全書』には ilhi jiyangciyūn 「副將軍。」という語も収録されており、jiyangciyūn の語形が見られるが、誤記である可能性が高い。

³⁰ 『大清全書』における「奸細」(間諜、スパイ)は giyansi と綴られている。見出し語 giyansi 「奸細。」および giyansi tuwa sindara niyalma be jafarangge 「拿獲奸細放火之人。」を参照されたい。なお、『増訂清文鑑』における「奸細」は新清語の güldusi である。

juleri 「南(に) ; 前(に)」	쥬러리	(6-6b-2-7) (6-10a-2-2)
jurambi 「出發する」	---	---
juraka	쥬라카	(6-3b-4-1)
jurgan 「行 ; 筋 ; 義 ; 部院(中央官庁)」	줄간	(6-16b-6-6)
juse 「子供達 ; 子供」 ³¹	쥬서	(6-16b-3-3)
juwan 「十」	쥬완	(6-10b-2-4) (6-11a-1-1)
juwe 「二」	쥬위	(6-10b-2-5) (6-11b-2-2) (6-16b-6-3) (6-23a-6-1) (6-23a-6-5) (6-23b-5-1) (6-25b-4-6)
kadalambi 「管轄する」	---	---
kadalara	카다라라	(6-7b-5-8)
kai 「指定や断定の終助詞」	캐	(6-2b-3-1) (6-5a-6-2) (6-12a-6-7) (6-14a-2-8) (6-14b-4-2) (6-15b-6-6) (6-16b-4-3) (6-17a-3-2) (6-18a-3-7) (6-19a-2-3) (6-23a-4-8) (6-24a-2-1) (6-24a-5-4)
karu 「報い」	카루	(6-1b-3-6) (6-6b-6-3)
kederembi 「巡邏する」	---	---
kederere	커더러러	(6-4a-1-5)
kejine 「久しく ; 多く」	커지너	(6-18a-4-2)
kenehunjembi 「疑う」	---	---
kenehunjeme	커너훈져머	(6-25b-5-3)
kenehunjerahū	커너훈져라후	(6-19a-3-6)
kenehunjere	커너훈져러	(6-10a-6-3)
kesi 「恩」	커시	(6-8a-5-1)
ki 「漢語氣」	키	(6-6b-3-3)
komso 「少ない」	콤소	(6-8b-6-1)
koro 「傷 ; 恨み」	코로	(6-9b-2-4)
korsombi 「悔恨する ; 恨む」	콜솨비	(6-21a-1-2) (6-22b-1-3)
kundulembi 「敬う」	---	---
kundulere	쿤두러러	(6-15a-2-7)
lang 「漢語郎」 (jeo lang 「周郎」)	랑	(6-6b-2-2)
loho 「腰刀」	로호	(6-23a-1-4)
lu 「漢語魯」 (lu su 「魯肅」)	루	(6-9a-4-3)
mangga 「難しい ; 硬い ; 強い ; 高価な」	망가	(6-2a-3-5)
manggi 「～た後」	망기	(6-1b-2-3) (6-5a-4-2) (6-6a-1-7) (6-6b-4-7) (6-17b-1-7) (6-19a-5-1) (6-21a-3-4) (6-22a-3-7) (6-24a-3-9)

³¹ 早田輝洋 (1988: 16) によれば、『満文金瓶梅』における juse は、しばしば一人の「子供」を指す。したがって、本稿では「子供達」という訳に加えて、「子供」という訳も併記している。なお、筆者が調査した満洲語三家子方言においても、juse が一人の「子供」を指す用法が確認されている。

marambi 「遠慮する；拒む；強く主張する」	---	---
marafi	마라피	(6-19a-4-3)
mederi 「海」	머더리	(6-8b-6-4)
mejige 「消息」	머지거	(6-18a-1-8) (6-18b-1-6)
membe 「私たち(除外的)を」	멤버	(6-23b-4-2)
mende 「私たち(除外的)に」	먼더	(6-24a-1-6)
meni 「私たち(除外的)の」	머니	(6-22b-2-7) (6-23b-1-5)
meni (meni meni 「各々」)	머니	(6-24b-6-4) ³² (6-24b-6-5)
mentuhun 「愚かな」	먼투훈	(6-9a-2-6)
mergen 「賢い；賢者、智者；狩猟の達人」	멀건	(6-9a-2-5)
micihyan 「浅い」	미치한	(6-9a-4-6)
mimbe 「私を」	میمب	(6-11b-1-4) (6-13a-1-6) (6-14a-5-3) (6-19a-5-5)
minde 「私に」	민더	(6-6b-4-4) (6-14b-5-3) (6-21b-2-1)
mini 「私の」	미니	(6-14a-4-2) (6-20b-6-3) (6-25a-6-1)
monggo 「蒙古」	몽고	(6-5a-1-6) (6-20b-5-1)
morohon 「目の大きくて円い」	모로훈	(6-11a-2-8)
mu 「漢語謀」 ³³ (ts'an mu 「参謀」)	무	(6-2a-1-9) (6-5a-5-9)
mujilen 「心」	무지런	(6-13b-1-3) (6-16a-6-2) (6-16b-2-2) (6-19a-3-4) (6-22a-5-3) (6-23b-5-5)
mujimbi 「嗚咽する；呻吟する」	---	---
mujire	무지러	(6-21b-6-1)
muke 「水」	무커	(6-1b-3-8) (6-3b-3-5) (6-3b-6-4) (6-7b-6-2)
murikū 「強情な人/馬；転手」	무리쿠	(6-9a-4-7)
musai 「私たち(包括的)の」	무세	(6-21a-6-7) (6-23a-1-7) (6-23a-4-5)
mutembi 「できる」	---	---
mutehe	무터히	(6-17a-1-4)
muterakū	무터라쿠	(6-2b-1-3) (6-9a-2-7)
mutere	무터러	(6-9b-1-4)
muterei	무터레	(6-24b-4-2)

³² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「머니」が「미니」のように見えるが、本来は「머니」と書かれていたものと考えられる。

³³ 『對音輯字』(下巻第22葉a面)では、漢字「謀」・「某」に対応する満洲文字はいずれも meo であるが、『三譯総解』における「某」の満洲文字表記はいずれも mu である。『三譯総解』・『満漢合璧三國志』における漢字「謀」の満洲文字表記については、王海波(2026b: 26)の脚注29を参照されたい。『三譯総解』において漢字「某」の満洲文字表記は第二巻の「關某」のみに出現しており、対応する満洲文字は mu である(出現箇所は王海波2026a: 54を参照されたい)。





nan 「漢語安」 ³⁴ (jiyan nan 「建安」)	난	(6-10b-2-2)
necimbi 「犯す」	---	---
necihe	너치허	(6-16a-5-5)
neimbi 「開く」	---	---
neifi	네피	(6-7b-3-7) (6-11a-2-9)
nekeliyen 「薄い」	너커런	(6-8a-6-3)
nenembi 「先行する」	---	---
nenehe 「先の」	너너허	(6-19b-6-2)
neneme 「先に」	너너머	(6-18b-1-4)
ni 「疑問・感動の終助詞」	니	(6-6a-5-3)
ni 「の ; で」	니	(6-1b-5-7) (6-8a-2-5) (6-8b-3-1) (6-18a-6-1) (6-18b-3-7) (6-19b-4-7) (6-20a-5-2) (6-20b-2-6) (6-21a-3-9) (6-21b-3-2) (6-22a-1-6) (6-22a-5-1) (6-24a-6-7) (6-25a-4-3)
nicumbi 「目を閉じる」	니춤비	(6-13a-6-4)
nikai 「終助詞 ni + 終助詞 kai」	니캐	(6-5b-5-6)
nimaha 「魚」	니마하	(6-3b-1-1) (6-4b-4-4)
ning 「漢語寧」 (g'an ning 「甘寧」)	닝	(6-20a-4-7) (6-20b-2-5) (6-20b-3-2) (6-21a-1-4) (6-21a-3-8) (6-21a-4-6) (6-21b-5-2) (6-22a-1-5) (6-22a-2-4) (6-22a-4-8) (6-23a-1-2) (6-23b-2-3) (6-23b-6-5) (6-24b-1-8) (6-24b-3-2) (6-25a-5-2)
ninggun 「六」	닝군	(6-8b-3-3)
niyalma 「人」	날마	(6-1a-3-7) (6-2a-6-6) ³⁵ (6-3b-1-3) (6-4a-2-2) (6-4b-1-7) (6-4b-4-1) (6-4b-4-7) (6-5a-3-3) (6-5b-1-4) (6-8b-3-9) (6-8b-6-6) (6-11b-2-5) (6-12a-6-2) (6-12b-1-3) (6-14a-3-4) (6-16a-1-5) ³⁶ (6-17a-6-5) (6-17b-3-3) (6-18b-6-3)

³⁴ 『三譯総解』の当該箇所では、「建安」の満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、jiyan nan に対応する形で表れている。岸田 (1997: 210) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも jiyan an である。岸田 (1997: 76-79) が指摘しているように、『三譯総解』において当該箇所が jiyan nan に作られた原因として、次の二点が考えられる。

(1) 『満文三国志』では当該箇所の jiyan an の an の n に付点がある。『三譯総解』の編纂者が、『満文三国志』における当該の付点を an の初頭の a の横に付されたものと勘違いして、nan と読んだことに起因する可能性がある。なお、筆者の確認によれば、『満漢合璧三国志』における jiyan an の an の n には付点はない。

(2) n で終わる音節の後に母音で始まる音節が続いた場合の実際の発音は、n を次の音節に連声させた [-n nV-] の如きものであった可能性もある。

³⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

³⁶ 原書における「날」は通常「」のような字形で記されるが、(6-16a-1-5)の「날」は、「」の字形を呈しており、右上の「」にある二本の横画が「く」のような形で現れている。満洲文字の sy () の中部の形状に類似している。

		(6-21b-1-1) (6-21b-3-4) (6-23a-3-6) (6-24b-3-5)
	날마 ³⁷	(6-17a-2-6)
niyambi 「朽ちる、腐る」	---	---
niyaha	냐하	(6-2b-2-1)
nofi 「人の助数詞」	노피	(6-21b-4-3) (6-24b-5-2)
nure 「酒(粟や黍などを原料として醸造した酒)」	누리	(6-24b-6-2)
obumbi 「する」	---	---
obufi	오부피	(6-3b-1-4)
obuha	오부하	(6-1b-6-2) (6-2a-2-1)
okdobumbi 「迎えさせる」	---	---
okdobure	옥도부러	(6-18b-3-1)
okdombi 「迎える」	---	---
okdome	옥도머	(6-15b-4-3)
olhon 「乾いた」	올혼	(6-4b-1-1)
ombi 「なる」	옴비	(6-13a-1-4) (6-13a-2-2) (6-15b-2-1) (6-17a-3-1)
oci	오치	(6-15a-1-1) (6-24a-1-4)
ofi	오피	(6-1a-5-4) (6-1b-3-5) (6-2a-2-3) (6-5a-1-4) (6-6b-4-3) (6-6b-6-7) (6-10a-2-5) (6-14b-3-2) (6-15b-3-5) (6-16a-1-6) (6-16a-4-6)
oho	오호	(6-8a-5-6)
ohobi	오호비	(6-10a-5-4) (6-21b-6-5)
ojorakū	오조라쿠	(6-3a-3-4) (6-18b-5-1) (6-19a-6-4) (6-23a-3-5)
ome	오머	(6-3b-6-3)
omicambi 「一緒に飲む」	---	---
omicame	오미차머	(6-17a-6-3) (6-24b-6-3)
omšon (omšon biya 「十一月」)	옴손	(6-10b-3-2)
onggombi 「忘れる」	---	---
onggorongge	옹고롱거	(6-1b-2-4)
orho 「草」	올호	(6-7a-2-5) (6-7b-5-6) (6-10a-3-2)
saimbi 「咬む」	---	---
saime	새머	(6-21b-5-7)
sain 「良い」	샌	(6-20b-1-2)
saisa 「賢者」	새사	(6-5b-2-4)
sambi 「知る」	삼비	(6-9a-3-2) (6-12b-6-2) (6-22b-3-7)

³⁷ 原書の当該箇所では、「날마」ではなく「날마」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

safi	사피	(6-2a-4-2) (6-20b-6-2) (6-22a-5-5) (6-24b-1-4) ³⁸
saha	사하	(6-14b-4-1)
sara	사라	(6-7a-4-5)
sarengge ³⁹	사령거	(6-9a-1-1)
sarkū	살쿠	(6-14b-1-8) (6-25b-2-7)
san 「漢語山」 ⁴⁰ (hūi ji san in 「会稽山陰」)	산	(6-1a-3-2)
sarin 「酒宴」	사린	(6-17a-6-1)
se 「～たち」	스	(6-6b-2-5) ⁴¹ (6-25a-1-4)
sehehun 「真っ直ぐに突っ立 っている；怒髪が逆立った」	서히훈	(6-21b-6-4)
sejilembi 「嘆く」	---	---
sejilehe	서지러히	(6-22a-3-6)
sembi 「言う」	---	---
seci	스치	(6-19a-6-1)

³⁸ 満洲語文語では、通常 sabu- は「見る」を、sa- は「知る」を意味する。しかし、原書の(6-20b-6-2), (6-22a-5-5), (6-24b-1-4)に見られる safi は、文脈や朝鮮語訳から判断すると、「知って」ではなく、むしろ「見て」と解釈すべき用例であると考えられる。

³⁹ 母音調和に従えば、sarengge ではなく、sarangge のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、afarengge に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 210) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも sarangge である。afarangge の清代文献における出現例は他にもあり、例えば、『大清全書』における abka de gasarakū niyalma be wakalarakū, fusihūn tacime wesihun hafunambi, mimbe sarangge abka dere schebi 「不怨天不尤人下學而上達知我者其天乎。」を参照されたい。

⁴⁰ 『對音輯字』(上巻第 38 葉 a 面) では、漢字「山」に対応する満洲文字は san である。一方、『三譯総解』全十巻において「山」の満洲文字表記は 4 例出現している (fan san 「樊山」、hūi ji san in 「會稽山陰」、tai san 「泰山」、nan bing san 「南屏山」各 1 例) が、いずれも san と綴られている。

⁴¹ 『三譯総解』において、「將軍たち」は jiyangjiyūn sa と綴られる例が比較的多いが、(6-6b-2-4/5) のように jiyangjiyūn se と綴られる例も見られる。

岸田 (1989: 27) は、この箇所の満洲文字表記は jiyangjiyūn sa、ハングル表記は「장원 스」(jyaŋ-jyuaŋ su) であると記述している。本稿で取り上げるのは駒澤大学本であり、筆者の確認によれば、駒澤大学本の当該箇所の満洲文字表記は jiyangjiyūn se であり、jiyangjiyūn sa ではない。ただし、筆者は延禧大学東方学研究所が影印した『八歳兒 小兒論 三譯総解 同文類解』の版本も確認しているが、この箇所の満洲文字表記は確かに jiyangjiyūn sa となっている。

また、岸田 (1997: 156) によれば、『三譯総解』(1-3a-6-1)における満洲文字表記は sakta となっている。筆者の確認によれば、駒澤大学本の当該箇所の満洲文字表記は sakda であり、sakta ではない。また、筆者は延禧大学東方学研究所が影印した『八歳兒 小兒論 三譯総解 同文類解』の版本も確認しているが、この箇所の満洲文字表記は確かに sakta となっている。

岸田 (1997: 237) によれば、『三譯総解』(8-12b-4-1)における満洲文字表記は siyon となっている。筆者の確認によれば、駒澤大学本の当該箇所の満洲文字表記は siyun であり、siyon ではない。ただし、筆者は延禧大学東方学研究所が影印した『八歳兒 小兒論 三譯総解 同文類解』の版本も確認しているが、この箇所の満洲文字表記は確かに siyon となっている。

以上を次表のとおり整理することができる。次表で示された 3 箇所の満洲文字の相違は、いずれも延禧大学東方学研究所が影印した版本において、右側に付されるべき点が欠落していることに起因する。

表 2: 『三譯総解』の版本間の差異

	駒澤大学所蔵の版本	延禧大学東方学研究所が影印した版本
(6-6b-2-4/5)	jiyangjiyūn se 「장원 스」	jiyangjiyūn sa 「장원 스」
(1-3a-6-1)	sakda 「작다」	sakta 「작다」
(8-12b-4-1)	siyun 「순」	siyon 「순」

sefi	스피	(6-11b-1-6) (6-21b-4-1) (6-24b-4-6)
sehe	스허	(6-5b-4-3) (6-8b-1-2)
sehebi	스허비	(6-10b-5-2) (6-25a-6-8)
seme	스머	(6-4a-5-6) (6-6a-1-2) (6-7a-3-3) (6-8b-1-3) (6-10a-4-2) (6-11a-6-5) (6-12a-6-5) (6-13b-6-8) (6-18a-3-2) (6-19a-3-7) (6-21b-5-4) (6-23b-4-5)
semeo	스모	(6-4b-3-3) (6-22b-5-7)
sere	스러	(6-2b-6-3) (6-5a-6-1) (6-17b-2-6)
serengge	스렁거	(6-14a-5-5) (6-22b-5-5)
seng 「漢語生」 ⁴² (siyan seng 「先生」)	승 ⁴³ 승	(6-7a-6-2) (6-18a-5-1) (6-20b-3-5) (6-22b-1-5)
senggi 「血」	성기	(6-8a-1-2) (6-10b-4-2)
ser (ser seme 「小さく」)	설	(6-2b-6-2)
serebumbi 「覺らせる ; 覺られる」	서러븨비	(6-15b-5-1)
serebuhe	서러부허	(6-23a-2-3)
serembi 「覺る、知覺する」	---	---
sarefi ⁴⁴	사러피	(6-12a-2-7)
si 「あなた」	시	(6-5a-5-3) (6-11a-5-2) (6-12b-6-3) (6-13a-6-1) (6-13b-1-1) (6-13b-5-1) (6-14a-6-5) (6-16a-6-1) (6-22a-6-3) (6-22b-2-1) (6-22b-3-5)
silhi 「胆囊」	실히	(6-1b-3-3) (6-2a-3-6)
simbe 「あなたを」	심버	(6-13a-5-6) (6-15a-2-3)
sindambi 「置く ; 放つ」	---	---
sinda	신다	(6-14b-5-2)
sindafi	신다피	(6-7b-3-6) (6-10b-6-5)
sinde 「あなたに」	신더	(6-12a-4-7) (6-13b-3-3)
sini 「あなたの」	시니	(6-5b-6-4) (6-6a-4-1) (6-12a-2-1) (6-13a-5-2) (6-14a-3-1) (6-24a-6-9)
siran (emu siran i, siran siran i 「続け様に、陸続と」)	시란	(6-25b-4-4)
sisimbi 「挿す」	---	---
sisiha	시시하	(6-25b-3-4)
siyan 「漢語先」 (siyan fung 「先鋒」)	산	(6-7b-6-6) (6-10a-2-3)

⁴² 王海波 (2026b: 30) の脚注 34 を参照されたい。

⁴³ 原書の当該箇所では、「승」ではなく「승」と記されている。これは誤記であると考えられる。対応する満洲文字表記は seng に対応する形式で現れている。

⁴⁴ 『満漢合璧三國志』における対応箇所は srefi であり、対応漢語は「識破」である。一方、『三譯総解』の当該箇所における満洲文字表記とハングル表記はそれぞれ sarefi と「사러피」であり、対応する朝鮮語訳は「알고」(知って)である。岸田 (1997: 154-263) の対校表は、『三譯総解』・『満文三國志』・『満漢合璧三國志』の三者間における差異を指摘するものであるが、この違いについては言及していない。

(siyan seng 「先生」)		(6-7a-6-1) (6-18a-4-5) (6-20b-3-4) (6-22b-1-4)
songgombi 「泣く」	---	---
songgome	송고머	(6-8a-1-3) (6-10b-4-3)
su 「漢語肅」 (lu su 「魯肅」)	수	(6-9a-4-4)
sui 「罪過」	쉬	(6-14a-4-4)
sun 「漢語孫」 (sun cuwan 「孫權」) (sun hala 「孫氏」) ⁴⁵	순	(6-1b-6-4) (6-8a-4-3)
sure 「聡明な；瑞々しい(果物)」	수리	(6-16a-1-3)
suweni 「あなたたちの」	쉬니	(6-16b-6-2)
šahūrun 「寒い」	샤후룬	(6-3b-5-1)
šan 「耳」	샨	(6-17b-1-3)
šangnambi 「賞する」	---	---
šangname	상나머	(6-19b-2-3)
šangnarakū	상나라쿠	(6-9b-3-3)
šolo 「暇」	쇼로	(6-15b-6-1)
šurumbi 「棹を操って船を進める；旋盤にかける」	---	---
šurume	슈루머	(6-3b-2-2)
šušunjambi 「囁く」 ⁴⁶	---	---
šušunjaha	슈순자하	(6-17b-1-6)
šušunjara	슈순자라	(6-22a-2-1)
tacimbi 「学ぶ；慣れる」	---	---
taciha	타치하	(6-14a-3-2)
tacihakū	타치하쿠	(6-14a-5-4)
taka 「暫く」	타카	(6-14b-5-1)
takambi 「見知る」	---	---
takarakū	타카라쿠	(6-12a-6-4)
takarakūngge	타카라쿱거	(6-12b-1-5)
takūrambi 「遣わす」	---	---
takūrafī	타쿠라피	(6-7a-6-4)
takūrahangge	타쿠라향거	(6-23b-4-6)
tana 「真珠の一種」	타나	(6-19b-2-2)
tang 「漢語塘」 (ciyan tang 「錢塘」)	탕	(6-1b-5-6)

⁴⁵ 原書における sun hala の朝鮮語訳は「손씨」である。また、『満漢合璧三国志』における対応箇所の漢語も「孫氏」である。

⁴⁶ 当該動詞の語幹は『大清全書』および『増訂清文鑑』では šušunggiya- の形で表れている。『大清全書』の見出し語 šušunggiyame 「耳邊說話。悄悄私言。」および『増訂清文鑑』の見出し語 šušunggiyambi 「耳邊低語」を参照されたい。

tanggū 「百」	탕구	(6-8b-4-6)
tanggūnggeri 「百回」	탕궁거리	(6-8a-2-1) (6-10b-4-4)
tantambi 「打つ」	---	---
tantaha	탄타하	(6-18a-1-7)
tantara	탄타라	(6-6b-3-1)
tašan 「嘘、偽り」	타산	(6-5b-5-5)
tašarambi 「誤る」	---	---
tašarahabi	타샤라하비	(6-6a-1-1)
tašarame	타샤라머	(6-16a-5-1)
te 「今」	터	(6-3a-3-5) (6-5b-4-5) (6-6b-1-5) (6-13b-3-4) (6-19b-1-1) (6-20a-4-5) (6-21b-2-2) (6-23a-2-2)
tebumbi 「座らせる; 住ませる; 職に就かせる; 駐屯させる; 盛る; 植える; 納棺する; 酒を作る」	---	---
tebufi	터부피	(6-16a-6-4)
tecembi 「一緒に座る」	---	---
tecefi	터쳐피	(6-21b-4-6)
teherembi 「釣り合う」	---	---
tehererakū	터허러라쿠	(6-8b-6-2)
teike 「今し方」	테키	(6-16a-4-1)
teile 「だけ」	테리	(6-24b-4-3)
tembi 「座る; 住む; 職に就く; 駐屯する; 沈殿する; 水が溜まる」	---	---
tefi	터피	(6-3b-1-8) (6-19b-4-3) (6-24b-6-1)
tehe	터히	(6-16a-2-2)
tehebi	터히비	(6-5a-2-4)
tere 「その; それ; その人; あの; あれ; あの人」	터러	(6-2a-1-2) (6-3a-6-5) (6-3b-4-2) (6-4a-6-1) (6-17b-3-2) (6-18a-3-3)
tereci 「それ/あれ/その人/あの人より; それから; さて; やがて」	터러치	(6-25b-4-1)
terei 「そ/あの人; その」	터레	(6-2a-3-3) (6-9a-6-1)
tetendere 「～からには」	터턴드러	(6-2b-4-7)
toktobumbi 「決める; 平定する」	---	---
tokdobufi ⁴⁷	독도부피	(6-18b-1-3)
tondo 「まっすぐな; 公平な; 忠誠な」	톤도	(6-14b-6-4)
tondoi 「公平に」	톤되	(6-16b-6-5)

⁴⁷ 語基形 tokdo- については、王海波 (2026b: 33) の脚注 36 を参照されたい。

ts'ai 「漢語蔡」 (ts'ai dzung 「蔡中」) (ts'ai ho 「蔡和」)	채	(6-17b-6-6) (6-20a-5-4) (6-21a-2-5) (6-22a-4-1) (6-22b-4-1) (6-23a-5-1) (6-24a-3-3) (6-24a-4-1) (6-25a-1-2) (6-25a-4-1) (6-18a-1-2) (6-20a-5-6) (6-21a-3-1) (6-22a-4-3) (6-23a-5-3) (6-23b-3-3) (6-24a-3-5) (6-24a-4-3)
ts'an 「漢語參」 (ts'an mu 「參謀」)	찬	(6-2a-1-8) (6-5a-5-8)
ts'oo 「漢語曹」 (ts'oo cenghiyang 「曹丞相」) (ts'oo gung 「曹公」)	초	(6-22b-5-2) (6-5b-2-2) (6-23b-3-6)
ts'oots'oo 「漢語曹操」	초초	(6-4a-6-3) (6-4b-2-2) (6-4b-6-1) (6-5a-1-5) (6-5a-4-3) (6-6a-2-1) (6-7a-5-1) (6-7b-2-5) (6-10b-6-1) (6-12a-1-1) (6-12b-1-1) (6-12b-4-1) (6-13a-4-2) (6-14a-5-1) (6-14b-4-3) (6-15a-5-1) (6-16a-1-1) (6-16b-5-2) (6-17a-5-6) (6-17b-1-1) (6-17b-2-1) (6-17b-4-1) ⁴⁸ (6-18a-2-2) (6-18a-4-1) (6-19a-1-1) (6-19a-3-2) (6-19b-1-5) (6-19b-3-3) (6-25a-2-3) (6-25a-3-7) (6-25b-4-2)
tu 「纛(大旗、軍旗)」	투	(6-8a-2-6) (6-25b-3-3)
tucibumbi 「出す」	---	---
tucibufi	투치부피	(6-7b-2-3) (6-13a-5-5)
tucibume	투치부머	(6-11b-3-1)
tucibure	투치부러	(6-6b-3-5)
tukiyembi 「持ち上げる；担ぐ；挙用する；称揚する」	---	---
tukiyehe	투켜허	(6-1a-2-4)
tumen 「万」	투먼	(6-8b-4-7)
turgunde 「～の原因/理由で」	툄군더	(6-1b-5-3) (6-12a-4-1) (6-22b-1-2)
turimbi 「賃借り/賃雇いする」	---	---
turifi	투리피	(6-1a-6-5)
tuttu 「そのように；あのよう に」	툄투	(6-2a-2-2) (6-8b-1-1) (6-10a-4-3) (6-14b-3-1) (6-24a-1-3)
tuwambi 「見る」	투암비	(6-8b-2-4)
tuwa	투와	(6-13a-3-7) (6-25b-3-6)
tuwaci	투와치	(6-5b-5-3) (6-7b-3-8) (6-15a-2-4)
tuwafi	투와피	(6-11a-1-4)
tuwaki	투와키	(6-14b-6-2) (6-17b-2-5)

⁴⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

tuwame	투와머	(6-11b-6-4) (6-15b-6-4) (6-17b-4-2) (6-20b-1-5)
tuwanambi 「見に行く」	---	---
tuwaname	투와나머	(6-20a-5-9)
tuweri 「冬」	투위리	(6-10b-3-1)
u 「漢語呉」 (dergi u gurun 「東呉国」) (u gurun 「呉国」)	우	(6-22b-4-4) (6-2b-4-3) (6-4a-4-2) (6-5a-5-5) (6-6a-3-1) (6-6a-6-6) (6-7b-5-2) (6-9a-1-3) (6-25a-5-3)
ubade 「ここに/で」	우바더	(6-6a-4-3)
ubai 「この」	우배	(6-15b-4-1)
ubaliyambi 「翻る ; 変心する ; 転変する」	---	---
ubaliyakai	우바라캐	(6-3a-1-3)
ubašambi 「翻す ; 耕す ; 背く」	---	---
ubašafi	우바샤피	(6-25a-5-6)
ubašara	우바샤라	(6-15b-1-2) (6-22a-5-2)
ucarambi 「出会う」	---	---
ucaraci	우차라치	(6-24b-3-9)
ucarhangge	우차라항거	(6-8a-6-2)
udu 「幾つ ; いくら~(だとして)」	우두	(6-22a-3-3)
uhe 「和合 ; 総体」	우허	(6-6b-5-8)
uju 「頭 ; 第一」	우쥬	(6-22a-2-5)
ulambi 「伝える」	---	---
ulame	우라머	(6-23a-4-2)
ulhimbi 「悟る、理解する」	---	---
ulhifi	울히피	(6-16a-2-1) (6-21a-5-5)
ulhihe	울히허	(6-16a-4-4)
ulhirakū	울히라쿠	(6-14b-2-4)
ulhire	울히러	(6-9a-5-2)
umai 「全く(~でない)」	우매	(6-4b-5-1) (6-21b-1-3) (6-21b-5-3)
ume 「否定命令標識」	우머	(6-10a-6-2) (6-16a-6-5) (6-23a-6-3)
umesi 「甚だ」	우머시	(6-5b-5-4)
umušuhun 「俯げに」	우무슈훈	(6-10b-1-1)
unde 「まだ~していない」	운더	(6-5a-1-3) (6-7a-4-6) (6-9a-5-3)
unenggi 「誠 ; 事実 ; 誠実な ; 本当の」	우녕기	(6-14b-6-3) (6-19a-5-4) (6-24a-1-2)
unggimbi 「遣わす」	웅김비	(6-2a-4-4)
unggicina	웅기치나	(6-18b-6-6)
unggihe	웅기허	(6-24b-1-1)
untuhuri 「徒に」	운투후리	(6-20a-3-3)

urebumbi 「果物を熟させる ; 飯を調理する ; 復習する ; 懲らしめる ; 糸を練る」	---	---
urebume	우리부머	(6-12b-5-2) (6-13b-6-6)
urgunjembī 「喜ぶ」	울군점비	(6-18a-3-6)
urgunjeme	울군져머	(6-2a-5-3) (6-16b-5-4) (6-17b-5-2)
urhumbi 「傾く」	---	---
urhufi	울후피	(6-9a-5-1)
urse 「衆人」	울서	(6-11b-4-4) (6-23b-1-3)
urunakū 「必ず」	우루나쿠	(6-10a-2-1) (6-14a-2-6) (6-14b-3-3) (6-15a-1-2) (6-15b-4-6) (6-17a-2-4) (6-17b-6-5) (6-19a-2-1)
usiha 「星」	우시하	(6-3b-5-2)
usin 「田畑」	우신	(6-1a-3-9)
uthai 「すぐに ; 即ち」	uhnai	(6-3a-3-6) (6-3a-6-4) (6-4b-6-2) (6-11b-2-1) (6-12b-3-1) (6-16a-1-7) (6-16b-3-1) (6-19b-1-2) (6-20b-2-3) (6-24b-1-5) ⁴⁹ (6-25a-1-5)
wajimbi 「終わる」	---	---
wajifi	와지피	(6-17b-4-3)
wajiha	와지하	(6-15a-4-3)
wajihabi	와지하비	(6-3a-5-4)
wajirengge	와지렁거	(6-2b-2-5)
waka 「～ではない ; 非」	와카	(6-4b-3-2) (6-12a-5-2) (6-14b-5-5) (6-16a-2-5) (6-17a-4-6) (6-22b-5-6)
wambi 「殺す」	---	---
wa	와	(6-12b-3-2)
waci	와치	(6-12b-2-5)
wafi	와피	(6-11b-3-3)
wame	와머	(6-12a-2-8)
wara	와라	(6-11b-4-8)
wasimbi 「降りる」	---	---
wasifi	와시피	(6-16a-2-4)
weihe 「齒」	웨허	(6-21b-5-6)
weihu 「丸木舟」	웨후	(6-3b-1-6) (6-19b-4-2)
weile 「罪 ; 事」	웨리	(6-3a-3-1) (6-4a-5-1) (6-9b-2-1) (6-16a-4-2) (6-18a-3-4) (6-19a-1-5) (6-19b-6-3) (6-23a-2-1) (6-23a-4-6) (6-24a-3-1) (6-24b-6-7) (6-25a-6-5)
weilembi 「働く ; 作る ; 事を為す ; 仕える」	---	---
weilembime	웨림비머	(6-1a-6-6)

⁴⁹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記「uhnai」のうち、「uhn」の印刷が不鮮明である。

weileme	웨리머	(6-1a-4-1)
wesihun 「上に；東に；高貴な」	위시훈	(6-15a-5-3) (6-16a-5-2)
wesimbumbi 「上奏する」	---	---
wesimbufi	위심부피	(6-1b-5-4)
ya 「誰；どこ；何；どれ；どちら」	야	(6-13a-3-8)
yabumbi 「行く、歩く；行う」	야븨뵤	(6-15b-6-5)
yabu	야부	(6-20b-1-6)
yabuci	야부치	(6-3a-3-7)
yabure	야부러	(6-9a-6-4)
yacin 「青黒い」 ⁵⁰	야진	(6-25b-3-2)
yadahūn 「貧しい」	야다훈	(6-1a-5-3)
yali 「肉」	야리	(6-6b-5-7) (6-11a-4-3) (6-12a-2-2)
yamji 「晩」	얌지	(6-6a-3-5)
yargiyan 「本当の」	얌간	(6-2b-2-6) (6-13b-1-2) (6-18a-3-1)
yarkiyambi 「誘き寄せる」	---	---
yarkiyame	얌카머	(6-22a-5-7)
yasa 「目」	야사	(6-11a-2-7) (6-13a-6-3) (6-21a-4-2)
yaya 「すべての、諸々の」	야야	(6-1b-1-2)
yerguwei 「蟻の」	열궤	(6-2b-5-4) ⁵¹
yertebumbi 「恥じさせる」	---	---
yertebuhe	열터부허	(6-20b-5-6)
yertembi 「恥じる」	---	---
yertere	열터러	(6-13b-5-3)
yooni 「すべて」	욘니	(6-7a-3-1)
yuwansuwai 「漢語元帥」 ⁵²	완궤	(6-8a-5-5)
žun 「漢語潤」 (de žun 「徳潤」)	순	(6-1a-2-7)

参考文献

<日本語文献>

池上二良 (1951) 「満洲語の諺文文献に関する一報告」『東洋學報』33(2): 97-118.

池上二良 (1954) 「満洲語の諺文文献に関する一報告 (承前)」『東洋學報』36(4): 57-74.

池上二良 (1963) 「ふたたび満洲語の諺文文献について」『朝鮮學報』26: 94-100.

⁵⁰ yacin の意味に関しては、結城 (2000) と早田清冷 (2011) を参照されたい。

⁵¹ 当該箇所の yerguwei は、『三譯総解』原書において ainu yerguwei i gese ser sere ergen be hairambi という文脈に出現している。yerguwei i では属格標識 i が二つあり、一つ削除すべきであると考えられる。なお、岸田 (1997: 207) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも yerhuwe である。

⁵² 康熙期の『清文鑑』における当該語の形式は yuwanšuai である。『對音輯字』(下巻第 32 葉 a 面) では、漢字「帥」に対応する満洲文字は šuwai である。『同文類解』(1-37b-9-3)におけるハングル表記の満洲語文語「완궤」も、yuwanšuwai に対応する形で現れている。一方、『三譯総解』において「元帥」を表す語は、yuwansuwai に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 209) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、それぞれ yuwansuwai と yuwanšuwai である。

- 今西春秋 (1958) 「漢清文鑑解説」『朝鮮學報』 12: 21-58.
- 王海波 (2026a) 「『三譯總解 (第二)』 ハングル表記滿洲語文語索引」『KOTONOHA』 278: 31-66.
- 王海波 (2026b) 「『三譯總解 (第三)』 ハングル表記滿洲語文語索引」『KOTONOHA』 279: 1-40.
- 王海波 (2026c) 「『三譯總解 (第五)』 ハングル表記滿洲語文語索引」『KOTONOHA』 280: 1-38.
- 小倉進平 (1914a) 「朝鮮に於ける日漢滿蒙語辭書」『朝鮮及滿洲』 83: 40-46.
- 小倉進平 (1914b) 「朝鮮に於ける日・漢・滿・蒙語讀本」『東洋學報』 4(2): 244-266.
- 菅野裕臣 (2005) 「朝鮮司訳院の清學書のハングル対音の性格について」『韓国語學年報』 1: 1-8.
- 岸田文隆 (1989) 「清學書に現れた滿洲語ハングル表記について：特に滿洲字 e に対する 2 通りのハングル表記をめぐって」『言語學研究』 8: 17-38.
- 岸田文隆 (1997) 「『三譯總解』の滿文にあらわれた特殊語形の来源」東京：東京外國語大學アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 竹越孝 (2016) 「『一百條』・『清文指要』 対照テキスト (1 3)」『KOTONOHA』 161: 25-47.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長 (1966-1968) 『五體清文鑑譯解』京都：京都大學文學部内陸アジア研究所.
- 羽田亨 (1937) 『滿和辭典』京都：京都帝國大學滿蒙古調查會.
- 早田清冷 (2011) 「『滿文三国志』 滿洲語の黒を表す語について—sahaliyan と yacin を中心に—」寺村政男・福盛貴弘 (編) 『語學教育フォーラム (第 24 号)：言語の研究 II—ユーラシア諸言語からの視座—』 143-152. 東京：大東文化大學語學教育研究所.
- 早田輝洋 (1988) 「滿洲語文語における或る単語の単数と複数について：『滿文金瓶梅』の asihan と asihata」『九大言語學研究室報告』 9: 1-17.
- 早田輝洋 (1993) 「滿洲語文語における「取りに (連れに) 来る」を意味する動詞について：『滿文金瓶梅』を資料として」『文學研究』 90: 89-130.
- 福田昆之 (2008) 『増訂滿洲語文語辭典』横浜：FLL.
- 結城佐織 (2000) 「滿洲語文語におけるアオ系統の色彩語について」『アジア・アフリカ文法研究』 29: 131-166.
- 和田景子 (2013) 「『漢清文鑑』における滿洲語のハングル表記：特に滿洲語の文字連続 CVwV を中心に」寺村政男 (編) 『大東文化大學日本語學科 20 周年記念論文集』 244-255. 東京：大東文化大學日本語學科.

< 韓国語文献 >

- 성백인(1984) 「譯學書에 나타난 訓民正音 使用: 司譯院 清學書의 만주어 한글 표기에 대하여」『한국문화』 5: 21-63.
- 邵磊(2011) 「『漢清文鑑』을 통해 본 滿文의 한글表記法」『中韓文化關係國際學術會議論文集』 290-308.

< 中国語文献 >

- 北京圖書館金石組 (編) (1989) 『北京圖書館藏中國歷代石刻拓本匯編 (清一) 第六十一冊』北京：中州古籍出版社.
- 崔宰宇 (1997) 「『漢清文鑑』的編排體例和語音轉寫」『中央民族大學學報 (社會科學版)』 1997(3): 82-89.
- 邵磊 (2016) 「清-朝鮮時期漢·滿·韓互譯中的文字對音：以『漢清文鑑』滿文的韓文表記法為例」『編譯論叢』 9(2): 57-92.

- 邵磊・多麗梅 (2022) 「海外中國典籍的多語轉寫研究：以『清語老乞大』漢語-滿文的朝鮮文轉寫為例」『東方語言學』2022(2): 17-25.
- 邵磊・多麗梅 (2023) 「『三譯總解』滿文的朝鮮文轉寫研究」『滿學研究』2023: 195-204.
- 邵磊・金龍軍 (2022) 「清代滿朝對音文獻中的特殊轉寫：以滿文-w 系復元音的朝鮮文轉寫為中心」『民族翻譯』2022(4): 77-86.
- 邵磊・林茶英 (2022) 「論朝鮮清學書滿朝對音中的音節對稱與不對稱」『滿語研究』2022(2): 69-74.
- 邵磊・任國俊 (2023) 「清學書中的朝鮮文『圈點字』研究」『民族翻譯』2023(3): 78-88.
- 邵磊・王敵非 (2022) 「『清語老乞大』滿文的朝鮮文轉寫研究」『滿族研究』2022(2): 89-95.
- 王敵非 (2013) 「『清語老乞大』滿朝對音研究」『黑龍江民族叢刊』2013(6): 155-158.

<英語・ドイツ語文献>

- Ikegami, Jiro. (1990) Significance of Korean materials in the study of Manchu. *Altai Hakpo*. 2: 71-77.
- Lie, Hiu. (1972) *Die Mandschu-Sprachkunde in Korea*. Bloomington: Indiana University.
- Norman, Jerry. (1965) *A Grammatical Sketch of Manchu*. Berkeley: Department of Oriental Languages, University of California.
- Schmidt, Peter. (1933) Chinesische Elemente im Mandschu. Mit Wörterverzeichnis (Fortsetzung). *Asia Major*. 8: 233-276.
- Yang, Jaeyeong. (2025) *Diachronic Morphology of Consonantal Stems in Jurchen and Manchu*. Ph.D. dissertation, Seoul National University.

An Index to the Written Manchu Words Transcribed in Hangul in the Sixth Volume of *Sam-yōk Ch'ong-hae*

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: *Sam-yōk Ch'ong-hae*, Hangul Transcription, Written Manchu

Sam-yōk Ch'ong-hae is one of the books compiled by the Bureau of Interpreters during the Joseon Dynasty in Korea. In this work, Written Manchu words were recorded in both the Manchu script and the Hangul transcription. Notably, the Hangul transcriptions do not always correspond directly to their Manchu script counterparts, suggesting that they may reflect phonetic nuances not fully represented in the Manchu script. This paper presents a Möllendorff-transcription-based index of Written Manchu words found in the sixth volume of *Sam-yōk Ch'ong-hae*. By aligning the Hangul transcriptions with their equivalents in the Manchu script (represented in Möllendorff transcription), the index serves as a practical reference for exploring script correspondences and phonological details of Written Manchu.

(おう・かいは boljon@163.com)